

# 南相馬市博物館年報

令和6年度

令和7年8月

南相馬市博物館



## 発刊にあたって

南相馬市博物館は、福島県営広域公園「東ヶ丘公園」の「歴史と伝承ゾーン」に位置づけられた緑豊かな自然林の中に立地し、国指定重要無形文化財「相馬野馬追」の祭場地東側の本陣山に隣接しています。

当館は、平成7年8月、歴史・民俗部門と自然部門に加え、相馬野馬追の資料を収集展示する特色ある「野馬追の里歴史民俗資料館」として開館し、翌平成8年には博物館法にもとづく登録博物館となりました。

平成10年4月には「野馬追の里原町市立博物館」へと名称を変更、さらに平成18年1月1日、小高町・鹿島町・原町市の旧3市町が合併し南相馬市が誕生したことに伴い「南相馬市博物館」と名称を改めました。

開館以来、「地域の歴史文化について理解を深め、文化の伝承と保存に努める」ことを目的に、常設展示のほか、企画展示や特別展示、さまざまな講座、講演、体験学習などの開催に加え、図録や研究紀要の刊行など、博物館事業の充実に努めてまいりました。

平成23年3月に発生した東日本大震災、特に東京電力(株)福島第一原子力発電所事故の影響により一時閉館しましたが、同年8月には、事業規模を縮小しながらも再開を果たしました。しかし、令和2年度から4年度には、世界的な新型コロナウイルス感染症拡大の影響により臨時休館をするなど、その対策を講じながら運営してきました。

本刊は、令和6年度の当館の運営状況や活動をまとめたものです。資料収集や調査研究、教育普及のほか、市民や他団体との連携の実績も掲載しました。

当館は、今後とも資料の調査研究や収集保存を積極的に行い、その成果を生かし、ふるさと教育を充実させつつ、地域文化の継承・向上に貢献してまいります。

これまで、ご支援、ご指導、ご協力賜りました方がたに深甚なる謝意を表しますとともに、今後とも当館の充実・発展のためにご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年8月

南相馬市博物館

館長 二上文彦

# 目 次

## 発刊にあたって

I	南相馬市博物館の沿革	1
II	施設・設備の概要、機能	6
	1. 建物の概要	6
	2. 施設の概要	6
	3. 施設の機能	6
III	常設展示事業	7
	1. 展示の概要	7
	2. 展示資料の概要	7
IV	令和6年度事業実施概要	10
	1. 企画展示事業	10
	2. その他の展示事業	21
	3. 資料収集管理事業	26
	4. 調査研究事業	27
	5. 教育普及事業	30
	6. その他の事業	36
	7. 情報発信	37
V	管理運営	42
	1. 組織・職員	42
	2. 各委員会等	42
	3. 予 算	45
	4. 入館者統計等	46
VI	資 料	47
	1. 南相馬市立博物館条例	47
	2. 南相馬市立博物館規則	49
	3. 南相馬市立博物館美術品等購入選定委員会要綱	51
	4. 南相馬市博物館収集展示委員会設置要綱	52
	5. 南相馬市博物館収集展示委員会運営細則	53
	6. 南相馬市博物館資料調査協力員会設置要綱	53
	7. 南相馬市博物館の資料収集に関する基本方針	54

## I 南相馬市博物館の沿革

- 平成2年6月 建設基本構想検討委員会・起草委員会・庁内検討委員会を設置
- 3年3月 第1回建設基本構想検討委員会を開催
- 4年1月 資料館建設庁内プロジェクトチーム設置
- 4月 資料館収集展示委員会設置
- 10月 資料館基本設計実施設計検討委員会設置
- 11月 資料館展示工事・建築工事基本設計業務委託
- 5年5月 資料館建築工事・展示工事实施設計業務委託
- 6年2月 建築工事現場工事着工
- 7年3月 建築完成引渡
- 8月 「野馬追の里歴史民俗資料館」開館  
開館記念特別企画展「野馬追の歴史をふりかえる」  
第1期「野馬追の歴史」展・第2期「馬の装い 鞍と鐙」展開催
- 8年4月 開館記念特別企画展「野馬追の歴史をふりかえる」  
第3期「中ノ郷騎馬武者の甲冑」展・第4期「もののぐの優美」展開催
- 5月 博物館法に定める博物館に登録
- 8月 第3回企画展「縄文土器は語る ―発掘された太古のくらし」開催
- 12月 第4回企画展「神々をまねくお神楽たち ―獅子神楽の世界」開催
- 9年4月 第5回企画展「交通にみる近代化 ―海岸線の開通」開催
- 7月 第6回企画展「造形之美 ―当世具足の世界」開催
- 10月 第7回企画展「相馬中村藩の御仕法」開催
- 10年4月 「野馬追の里原町市立博物館」に名称変更
- 4月 第8回企画展「海の住人クジラ ―浜通りのクジラ化石」開催
- 6月 入館者5万人達成
- 7月 第9回企画展「武家の繁栄 ―祈りのしるし」開催
- 10月 第10回企画展「絵図からみた原町の周辺 ―江戸時代の地域観」開催
- 11年4月 第11回企画展「相馬のやきもの ―収蔵資料を中心として」開催
- 7月 第12回企画展「近世大名家の名品展 ―奥州板倉家を中心として」開催
- 12年1月 第13回企画展「古代の瓦と今の瓦 ―泉廃寺跡を中心として」開催
- 4月 福島県立美術館移動展「近代日本美術と相双の美術家たち」開催
- 7月 第14回企画展「鐙 ―その歴史と美」開催
- 10月 第15回企画展「絵馬 祈りと願い ―相双地方を中心として」開催
- 12月 映像「南相馬の炭焼き」第6回全国地域映像コンクール優秀賞受賞
- 13年4月 第16回企画展「相馬の鋳物師 ―かなものの歴史と技術―」開催
- 7月 「野馬追」展開催
- 8月 夏休み特別企画「原町の鳥たち」開催
- 14年1月 第17回企画展「篆刻の世界 ―林泉汀作品を中心として―」開催
- 4月 福島県文化財センター白河館巡回展「新編陸奥国風土記 ―巻之一 白河郡」開催
- 7月 「野馬追」展開催
- 8月 入館者10万人達成

## I 南相馬市博物館の沿革

- 平成14年 8月 夏休み特別企画「原始・古代のくらしと道具」開催  
10月 第18回企画展「米づくり ―むかしの暮らしの中で」開催
- 15年 1月 第19回企画展「中村藩の炮術 ―関流炮術を中心として―」開催  
4月 特別展「相馬地方の恐竜時代」開催  
6月 第20回企画展「大名具足と相馬の武具」開催  
7月 「野馬追」展開催  
8月 夏休み特別企画「よみ・かき・そろばん① ―江戸時代の風景―」開催  
10月 第21回企画展「相馬地方の妙見信仰 ―千葉氏から相馬氏へ―」開催
- 16年 1月 発掘調査成果展「埋もれていた古のくらし ―はらまちの遺跡Ⅰ―」開催  
2月 市制50周年記念展「写真で見る原町市の50年」  
4月 福島県立博物館移動展「博物館から歴史を学ぶ」開催  
7月 「野馬追」展開催  
8月 夏休み特別企画「昔の道具とくらし」開催  
10月 第22回企画展「原町の動物 けもの・カエル・ヘビの仲間」開催
- 17年 1月 第23回企画展「戦国時代の相馬」開催  
4月 開館10周年記念特別展「原町市の文化財」開催  
6月 「野馬追」展開催  
7月 夏休み特別企画「はらまちの川と自然」  
9月 第24回企画展「発掘された日本列島2005」開催
- 18年 1月 3市町合併に伴い、博物館の名称を「南相馬市博物館」に変更  
第25回企画展「自然の恵みと祭り ―海と川―」開催  
4月 特別展「南相馬市の生き物 ―ふるさとの動物と植物―」開催  
入館者15万人達成  
7月 第26回企画展「野馬追たんけん隊」開催  
9月 第27回企画展「相馬の画人 堀池雲岳をめぐる世界」開催
- 19年 1月 特別展「描かれた相馬野馬追」開催  
4月 特別展「みんな集まれ！ お宝だどお〜 ―最近の博物館収蔵資料から―」開催  
7月 野馬追資料特別陳列  
8月 特別展「はくぶつかんで見たよ！ ―教科書につなぐ博物館資料―」開催  
「報徳記原稿」特別公開  
9月 第28回企画展「将門伝説 ―相馬と周辺地域―」開催  
11月 杉並区立郷土博物館共催展「相馬野馬追 ―受け継がれる武家の伝統―」開催  
(於：杉並区立郷土博物館分館)
- 20年 1月 第29回企画展「先人の足跡 ―竹島國基が歩いた遺跡―」開催  
4月 特別展「南相馬市の武家文化 ―指定文化財から―」開催  
5月 杉並区立郷土博物館共催展「杉並文学館 ―井伏鱒二と阿佐ヶ谷文士―」開催  
7月 野馬追資料特別陳列  
8月 特別展「朝日座の軌跡 地方の映画館が遺したもの」開催  
10月 第30回企画展「田んぼのいきもの・たからもの ―人とともに歩んできた自然―」開催
- 21年 1月 第31回企画展「相馬の武士 町に住む武士・村に住む武士」開催  
4月 特別展「アンモナイト・ワールド ―相馬地方のアンモナイトとその仲間たち―」開催

- 平成21年 7月 野馬追資料特別陳列
- 8月 「福島県歴史資料館収蔵資料からみた 南相馬のちょっと昔」 展開催
- 10月 第32回企画展「相馬の馬」 開催  
入館者20万人達成
- 22年 1月 第33回企画展「相馬駒焼」 開催
- 4月 特別展「真野川のしぜん ―なにがいの？ しょくぶつ・どうぶつ―」 開催
- 6月 野馬追資料特別陳列
- 8月 第34回企画展「台所からキッチンへ ―道具に見る便利さのゆくえ―」 開催
- 10月 特別展「鹿島区の寺院展 ―指定文化財を中心に―」 開催
- 23年 1月 企画展「古代陸奥の国 行方の郡家 ―国史跡 泉官衛遺跡―」 開催
- 3月11日 東日本大震災発生
- 3月12日 休館。東京電力(株)福島第一原子力発電所事故発生
- 8月5～7日 除染実施
- 8月9日 一部業務再開
- 24年 1月 特別展「ふるさと再発見 私たちのたからもの」 開催
- 4月 特別展「阿武隈高地の生き物たち ―未来に向かって、生きる―」 開催
- 6月 特別展「相馬のたから 相馬野馬追」 開催
- 9月 福島県立美術館移動美術展「ふるさとの記憶 安らぎの美術」 開催
- 10月 福島県立博物館移動展「ジュラシック相馬 化石が語る恐竜時代の相馬地域」 開催
- 25年 1月 特別展「ふるさと小高」 開催
- 4月 特別展「福島に生きる ―福島県の野生生物とナチュラリストたち―」 開催
- 7月 特別展「野馬追の今と昔」 開催
- 9月 特別展「鹿島のたからもの 南相馬市のなかで」 開催
- 12月 映像「相馬野馬追 ―真夏を疾走する伝統行事―」 第11回全国地域映像コンクールグランプリ受賞
- 26年 1月 特別展「原町無線塔 ―世界をつないだ白亜の巨塔」 開催
- 4月 特別展「被災地の原野に生きる ―南相馬市の生き物と人・暮らし―」 開催
- 6月 復興浜団共催「こころの金魚 深堀隆介展 in 福島」 開催  
特別展「野馬追のビジュアルいまむかし」 開催
- 8月 国立科学博物館共催「震災復興・国立科学博物館コラボミュージアム 南相馬にアロスウルスがきたぞ！」 開催
- 27年 1月 特別展「博物館収蔵資料」 開催
- 4月 特別展「ふくしまに生きる爬虫・両生類 ―身近な生き物から未来の南相馬・福島を考える―」 開催
- 6月 特別展「相馬の物具文化」 開催
- 8月 武者絵展実行委員会共催「大武者絵展」 開催
- 9月 特別展「戦後70年記念 原町飛行場と戦争」 開催
- 10月 入館者25万人達成  
特別展「SACRIFICE―眠る地層にささげる花」 開催
- 28年 1月 福島県立博物館移動展「被災地からの考古学1 ―福島県浜通り地方の原始・古代―in 南相馬」 開催

## I 南相馬市博物館の沿革

- 平成28年 4月 特別展「文化財に見る市制10年の歩み 震災からの心の復興」開催  
7月 特別展「野馬追屏風の世界」開催  
9月 特別展「報徳仕法と浄土真宗門徒移民 奥州中村藩の復興への取り組み」開催  
29年 1月 特別展「櫻井先生のあつめた浜通りの花々」開催  
4月 特別展「博物館収蔵資料展2017」開催  
7月 特別展「武士の備え」開催  
9月 特別展「被災地の海を生きる ーわたしたちの海 未来につなげる蒼い海ー」開催  
11月 特別展「東北押し葉標本」開催  
12月 映像「日吉神社の浜下り」第15回全国地域映像コンクール梶原拓記念奨励賞受賞  
30年 1月 特別展「日本の凧 ー大橋コレクションー」開催  
4月 特別展「南相馬の樹<sup>き</sup>」開催  
6月 特別展「伊達成実 南相馬に来たる ー北の大地に共存する相馬と伊達ー」開催  
9月 特別展「描かれた相馬野馬追2018」開催  
31年 1月 特別展「相双の化石大集合！」開催  
4月 企画展「双葉地方の昆虫」開催  
令和元年 5月 1日 「平成」から「令和」に改元  
6月 企画展「武士の装い ーとりどりのかたち」開催  
9月 企画展「奥相三十三所観音札所巡り」開催  
11月 国立科学博物館巡回展「日本の生物多様性とその保全」開催  
令和2年 4～6月 新型コロナウイルス感染症拡大の影響および空調設備工事のため、臨時休館  
7月 「相馬野馬追収蔵資料」展開催  
10月 企画展「冥界へようこそ ー仏画・幽霊画などからみた死生観ー」開催  
令和3年 3月 企画展「南相馬の震災10年」開催  
市内における新型コロナウイルス感染症拡大、市内施設の感染症対策確認のため2日間臨時休館  
7月 市内における、新型コロナウイルス感染症のクラスター発生による、福島県の「南相馬市における新型コロナ感染症集中対策」のため24日間臨時休館  
企画展「受け継がれる伝統のチカラ 相馬野馬追」開催  
11月 企画展「中村藩と近代のはじまり」開催  
令和4年 1～2月 新型コロナウイルス感染症急拡大のため臨時休館。当初は1月31日までであったが、その後2月6日まで休館延長、さらに福島県の「まん延防止等重点措置」の重点措置地域に指定されたため2月20日まで休館再延長  
2月 企画展「やってきました！ 猫展 浮世絵で見る人と猫の文化史」開催  
3月 文化庁「食文化ミュージアム」事業において当館が認定される。  
3月16日に発生した福島県沖地震（最大震度6強）を受け、利用上の安全確認のため1日間臨時休館  
4月 企画展「震災復興と発掘調査」開催  
7月 「相馬野馬追収蔵資料展」開催  
10月 企画展「相双地方の被爆体験を伝え継ぐ ー証言 ヒロシマ・ナガサキのことー」開催  
令和5年 1月 企画展「倉科光子植物画展 ツナミプランツ ー津波浸水域の植物たちー」開催  
4月 福島県立博物館移動展「アンモナイト合戦in南相馬」開催

- 令和5年6月 入館者30万人達成
- 7月 企画展「野馬追絵図とは何か」開催
- 11月 企画展「相馬重胤の下向と奥州相馬氏」開催
- 令和6年3月 企画展「しらべてわかった！ おだかの自然」開催
- 5月 企画展「五月中の申 御野馬追」開催
- 9月 浦尻貝塚縄文の丘公園オープン記念企画展「縄文 みなみそうま」開催
- 令和7年3月 企画展「寄贈コレクションで見る日本近現代の彫刻」開催

## II 施設・設備の概要、機能

### 1. 建物の概要

建築面積／2,288.6㎡

構 造／鉄筋コンクリート平屋建て（一部地下一階）

敷地面積／4,729.08㎡（県営広域公園内）

### 2. 施設の概要

管理部門／事務室 体験学習室 補修工作室 写場 燻蒸室 シアター  
エントランスホール

展示部門／常設展示室 特別展示室 展示ホール

収蔵部門／収蔵庫 特別収蔵庫

機械設備／高圧受電設備 空気調和設備 消防設備 防犯設備

部門別床面積／管理・機械部門 1,051.6㎡

展 示 部 門 754.0㎡

収 蔵 部 門 483.0㎡

駐 車 場／博物館駐車場 15台

公園南側駐車場（公園施設）74台

公園北側駐車場（公園施設）81台

### 3. 施設の機能

常設展示室／野馬追部門 自然部門 考古部門 歴史部門 民俗部門

特別展示室／年4回程度開催 定期企画展

シアター／映像による資料案内および学習（150インチ スクリーン対応映像設備）  
収容人員83人（うち車椅子席3席）

体験学習室／収容人員43人 講演会・講座・講習会

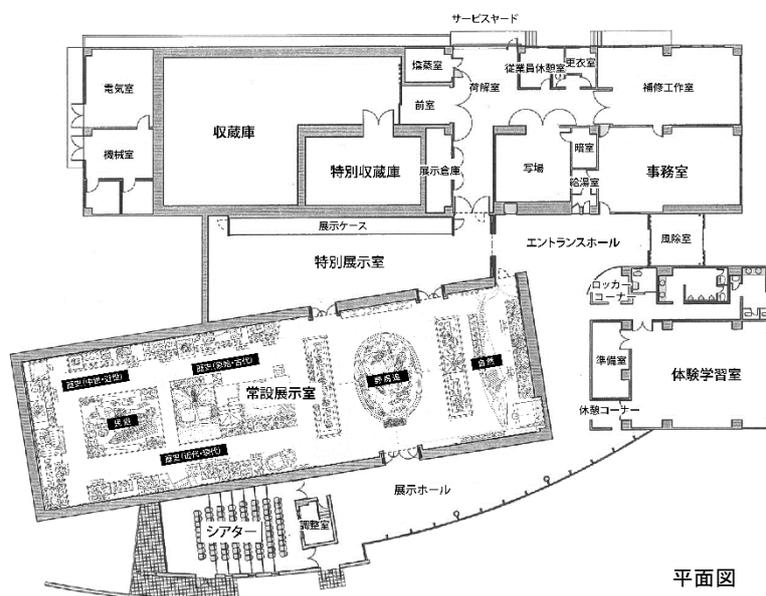
収 蔵 庫／積層棚 225㎡

特別収蔵庫／積層棚・箆筒 70㎡

補修工作室／資料復元補修および研究施設 84㎡

燻 蒸 室／展示・収蔵資料の燻蒸施設 12㎡

写 場／収蔵資料の写真撮影施設 42㎡



平面図

## Ⅲ 常設展示事業

### 1. 展示の概要

常設展示室と特別展示室を中心にシアター、展示ホール、エントランスホールによって構成している。国指定重要無形民俗文化財「相馬野馬追」をはじめ、この地方に関する自然や歴史、民俗についての資料を公開することによって、野馬追の里として特色のある歴史と文化を紹介している。

常設展示室は野馬追、自然、歴史（原始・古代、中世・近世、近代・現代）、民俗の各部門で構成し、それぞれの展示テーマをもとに実物資料やグラフィック資料、映像資料、複製資料などを複合的に組み合わせた展示をしている。

順路は野馬追部門、自然部門、歴史部門、民俗部門へと続く。歴史部門の中央には羽山横穴の復元模型、実物の古代製鉄炉、近代・現代の文化人のコーナーがある。民俗部門は「馬と生きる」「新田川の恵み」の2つのテーマを設け展示している。

そのほか、各分野のミニテーマを展示するコーナーもある。

### 2. 展示資料の概要

#### ◆野馬追

神旗争奪戦ジオラマ 相馬野馬追諸道具（甲冑 相馬太田神社神輿 野馬追列帳 神旗 野馬懸諸道具など）  
相馬野馬追図屏風（複製） 野馬追絵巻（映像）

#### ◆自然

化石（古生代～新生代） 小型肉食恐竜足跡化石 ヒゲクジラ類脊椎骨化石 岩石標本 南相馬市原町区の地形模型 動植物のジオラマ 動植物写真パネル 人の進化（猿人、原人、旧人、新人の頭蓋骨標本） 馬の進化（図）  
南相馬市の自然（映像） 剥製（ウサギ・キジなど） 昆虫標本（ハッチョウトンボなど）

#### ◆歴史（原始・古代）

旧石器 縄文土器 縄文時代の狩猟具・漁労具・加工具 縄文土偶 縄文人の装飾品 鷲内遺跡出土編組製品（クルミかご） 縄文人の作業のようす（模型） 弥生時代の農耕具 桜井遺跡出土品 古墳および横穴群地図 桜井古墳群出土品（底部穿孔二重口縁壺・銅鏡・鉄製直刀） 竪穴住居（高見町A遺跡1号住居跡の模型） 高見町遺跡出土の塩釜式土器 羽山横穴の実物大模型および出土品 泉官衙遺跡出土品 大六天遺跡出土品 蛭沢遺跡群出土品 広畑遺跡出土墨書土器 金沢地区製鉄遺跡群長瀬遺跡竪形炉（実物） 陸奥国官衙関連遺跡（図） 行方八社（図）

#### ◆歴史（中世・近世）

相馬氏の歴代系図 牛越城（模型） 中世行方地方の村（図） 県指定重要文化財木造十一面観音立像（模型） 相馬岡田文書（複製） 板碑（模型） 中村藩領地目録 三百一本の槍 給人郷士関係文書 中村藩の武士制度（図） 原ノ町宿（模型） 商家の店頭風景（実物大模型） 天明の飢饉関係文書 報徳仕法関係文書 二宮尊徳坐像 富田高慶坐像（複製） 武山家住宅（模型）

#### ◆歴史（近代・現代）

原ノ町誕生までの町村の変遷図 戊辰戦争関係文書 官員文書（役職名簿） 明治初年行方郡行政区分（図） 日清・日露戦争関係図 関東大震災関係文書 手回し映写機 常磐線開通間もない頃の原ノ町駅構内（写真） 原町紡織(株)工場（写真） 原町紡織(株)関係文書 無線塔主塔（模型） 昭和初期の原ノ町駅のようす（模型および映像） 転車台（模型） C62機関車（模型） 原町飛行場関係写真 特別攻撃隊の写真および遺品 薬莖・銃弾 配給品購入台帳 戦時中の雑誌 農地解放関係図・写真 常磐線の電化完成（写真） 開業当時の丸三製紙(株)原町工場（写真） 無線塔解体（写真） 佐藤精明関係遺品 羽根田利夫関係文書および写真 羽根田利夫新彗星発見時の手作り望遠鏡 昭和41年製軽自動車（スバル360） 無線塔頭部（屋外展示） C50機関車（屋外展示）

#### ◆民俗

農耕馬の模型および馬耕用具 かなぐつ屋の用具 フイゴ 蹄鉄 馬頭観世音石塔（模型） 絵馬 馬頭尊の護摩札 猿駒曳の護符 水産旧慣調（写真） 川舟 川漁関係写真および用具 鮭運搬用具 ヤナ場（模型） サケ雌雄（剥製） 明治・大正・昭和・平成時代の鮭漁（写真） 鮭料理（模型）

### Ⅲ 常設展示事業



#### ◆野馬追

相馬野馬追の勇壮な神旗争奪戦をジオラマで再現している。このほかに甲冑や野馬追の祭具、野馬追図屏風などを展示。野馬追の歴史と変遷を解説。



#### ◆自然

自然との共存をテーマに、秋の山里の動植物を再現したジオラマ、原町区の地形模型、ヒゲクジラ類化石、ジュラ紀動植物化石の展示ほか、人や馬の進化を解説。



#### ◆歴史（原始・古代）

旧石器時代から平安時代まで、市内出土資料を中心に展示。史跡浦尻貝塚・桜井古墳・羽山横穴・泉官衙遺跡をはじめ、全国的にもまれな鷲内遺跡出土の編組製品（クルミかご）など、近年の発掘調査の成果から、当時の人びとの生活や文化を解説。



#### ◆歴史（中世・近世）

鎌倉時代から江戸時代までの、相馬氏の統治、中世の信仰、原ノ町宿の復元模型、天明の飢饉と村おこし、奥州中村藩の政治、報徳仕法などの資料を展示し、解説。



#### ◆歴史（近代・現代）

戊辰戦争から現代までの、明治・大正・昭和の世相を示す資料とともに、無線塔や転車台、昔の原ノ町駅の風景などの復元模型を展示。また、原町の文化人の紹介も行う。



#### ◆民俗

人と馬、人と川との関わりを紹介する。馬を使った農耕具や絵馬などの馬に関する資料、鮭漁のヤナ場のようすや漁に使用された道具を通し、人びとの暮らしぶりを紹介。

## 常設展展示替えの記録

## 歴史（原始・古代）のうち「縄文」コーナー展示替え資料一覧（令和6年12月から）

No.	資料名	点数	時期	遺跡名	展示箇所	展示替え
1	深鉢形土器	1	中期（大木9式新）	原町区植松A遺跡	右フロアー	常設継続
2	深鉢形土器	1	中期（大木9式古）	原町区滝ノ原遺跡	右フロアー	常設継続
3	人体文土器	1	中期（大木10式）	鹿島区宮後B遺跡	右フロアー	新展示
4	注口深鉢	1	中期（大木10式）	鹿島区宮後B遺跡	右フロアー	新展示
5	注口土器	1	晩期	鹿島区一杯清水遺跡	右フロアー	新展示
6	クルミかご（処理済）	1	晩期	鹿島区鷺内遺跡	中央展示台	常設継続
7	局部磨製石鏃	12	草創期	原町区宮平遺跡	右ローケース	新展示
8	石錐	7	中期	原町区前田遺跡	右ローケース	2点継続 5点新展示
9	尖頭器	1	草創期	原町区宮平遺跡	右ローケース	新展示
10	尖頭器	1	前期	小高区宮田貝塚	右ローケース	新展示
11	尖頭器	1	時期不明	小高区大田和広畑遺跡	右ローケース	常設継続
12	石匙	3	前期	原町区原遺跡	右ローケース	常設継続
13	磨製石斧	8	時期不明	原町区石倉遺跡	右ローケース	新展示
14	打製石斧	2	時期不明	原町区石倉遺跡	右ローケース	新展示
15	鹿角製釣針	2	前期	小高区宮田貝塚	右ローケース	新展示
16	骨角製尖頭具	3	前期	小高区宮田貝塚	右ローケース	新展示
17	人面把手	1	中期	原町区石倉遺跡	左ローケース	新展示
18	男根状土偶	1	中期	小高区大富	左ローケース	新展示
19	土偶の頭部	1	後期	原町区石倉遺跡	左ローケース	新展示
20	土偶の頭部	1	後期	原町区石倉遺跡	左ローケース	新展示
21	土偶の頭部	1	後期	小高区大田和広畑遺跡	左ローケース	新展示
22	遮光器土偶	1	晩期	小高区浦尻貝塚	左ローケース	新展示
23	石棒	1	中期？	原町区高字八竜出土	左ローケース	常設継続
24	石剣頭部	1	晩期	小高区大田和広畑遺跡	左ローケース	常設継続
25	玦状耳飾り	1	前期	犬這遺跡	左ローケース	常設継続
26	玦状耳飾り	3	前期	小高区宮田貝塚	左ローケース	新展示
27	鼓状土製耳飾り	2	時期不明	原町区石倉遺跡	左ローケース	新展示
28	鼓状土製耳飾り	1	時期不明	原町区市渡戸遺跡	左ローケース	新展示
29	玉類	31	時期不明	原町区石倉遺跡	左ローケース	新展示
総数		92点				

## IV 令和6年度事業実施概要

### 1. 企画展示事業

#### (1) 「しらべてわかった！ おだかの自然」

[担当学芸員] 仲川邦広

[期 間] 令和6年3月9日～5月6日 51日間

[観覧者数] 1,163人

(一般：1,016人 高校生：33人 小中学生：114人)

\*開催期間が年度をまたいでいるので、令和5・6年度の合計実績を記載した。

[内 容] 小高の自然調査事業は、当館が平成28年（2016）から令和4年（2022）にかけて実施した南相馬市小高区の自然総合調査事業である。

これまで小高区（旧小高町）では、『原町市史』自然編や『鹿島町史』自然編の編纂事業で行われたような自然調査がなされておらず、区内の自然環境を知るための基礎的な情報が乏しい状況にあった。

このため、平成23年（2011）に起きた東日本大震災や住民避難による生態系の変化や鳥獣害等に対し、あらためて小高区の自然環境を理解し対応するための基礎的な調査事業として、震災から5年後の小高区の避難指示解除をうけ、市内外に加え県外で活動する地学・動植物各分野の専門家に依頼し、令和4年にかけて調査を実施した。

令和5年（2023）に発行された本事業報告書では、小高区からの約1万9000点近くの標本・資料にもとづき、1,969種の生物・化石・鉱物が記録された。

本展示では、調査事業で採集・撮影された標本・写真を可能なかぎり展示・紹介することで、小高区に見られる豊かな自然とその魅力に気が付くことができる、あるいは再確認できる機会とし、もって同区の教育・産業の復興に寄与するものとして開催した。

くわえて、展示内に調査を実施した各専門家・専門団体の紹介パネルを設けることで、自然に関心のある老若男女が自らの探求活動を始めるにあたって、その助けとなる人的環境が存在することを併せて示すものとした。

#### [展示構成]

1. おだかの地形と地質・化石
2. おだかの植物
3. おだかの菌類（キノコ）
4. おだかの哺乳類
5. おだかの野鳥
6. おだかの昆虫

#### [関連事業]（令和6年度事業）

- ・講座「小高の自然調査事業 成果報告会」

日時：令和6年4月14日

午前の部：化石・動植物／10時～12時

午後の部：昆虫／13時～15時30分

講師：小高の自然調査調査員（竹谷陽二郎氏、根本修行氏、黒沢高秀氏、本多隆氏、大槻晃太氏、五十嵐悟氏、斎藤修司氏、塘忠顕氏、井上尚武氏、末永福男氏、三田村敏正氏、吉井重幸氏）

参加者数：76人

\*本講座はYouTubeでライブ配信した。ライブ視聴者は81人。



講座「小高の自然調査事業 成果報告会」の様子

5月6日までのアーカイブ再生回数は107回。

・体験学習「小高の自然観察会」

日時：令和6年4月28日 9時30分～12時

講師：小高の自然調査調査員（黒沢高秀氏、弦間一郎氏、末永福男氏、三田村敏正氏）

参加者数：40人

[展示資料]

No.	資料名	員数	種別	所蔵	備考
<b>1. おだかの地形と地質・化石</b>					
1	中生代白亜紀の岩石類	10	標本	当館	八丈石山花崗岩ほか
2	新生代新第三紀 湯長谷層群化石（五安層）	6	標本	当館	キッシュウタマキガイほか
3	新生代新第三紀 湯長谷層群化石（水野谷層）	5	標本	当館	マテガイ属の一種ほか
4	新生代新第三紀 大年寺層化石（貝類）	12	標本	当館	マガキ、キタノオオノガイほか
5	新生代新第三紀 大年寺層化石（鯨類）	5	標本	当館	鯨類の脊椎、肋骨、下顎骨ほか
6	第四紀 塚原層の貝化石	125	標本	当館	タマツボなど
7	第四紀 塚原層の植物化石	10	標本	当館	ブナ、イタヤカエデなど
8	五安層の化石発掘作業（映像）	1	動画	当館	
<b>2. おだかの植物</b>					
9	海岸の植物	5	標本	福島大学	ハマエンドウなど櫻井氏標本ほか
10	平地・林の植物	7	標本	福島大学	カヤランなど櫻井氏標本ほか
11	水辺の植物	5	標本	福島大学	ミズアオイなど櫻井氏標本ほか
12	植物レプリカ	2	複製	当館	ミズアオイ、ツツイトモ
13	植物生態写真	9	写真	当館、個人	ツツイトモなど
14	櫻井信夫氏資料	3	資料	福島大学	沿岸植物分布地図、記録ノートほか
<b>3. おだかの菌類（キノコ）</b>					
15	キノコレプリカ	20	複製	栃木県立博物館、当館	
16	菌類標本	10	標本	個人、当館	コウボウフデほか
17	菌類標本（さわれるコーナー）	1	標本	当館	ノウタケ
18	菌類生態写真	19	写真	個人	
19	シロオニタケ巨大模型	1	模型	当館	高さ約1.8m
<b>4. おだかの哺乳類</b>					
20	動物剥製（さわれるコーナー）	2	剥製	個人	イノシシ幼獣、イタチ
21	動物剥製	21	剥製	双葉町教育委員会、那須野が原博物館、当館	アナグマ、カヤネズミほか
22	動物生態写真	8	写真	個人、当館	ニホンザル、タヌキほか
23	動物生態映像	1	動画	当館	当館Youtubeチャンネルで公開
<b>5. おだかの野鳥</b>					
24	野鳥剥製（ものさし鳥）	5	剥製	双葉町教育委員会、当館	トビ、ヒヨドリほか

IV 令和6年度事業実施概要

No.	資料名	員数	種別	所 蔵	備 考
25	野鳥剥製（海岸）	2	剥製	双葉町教育委員会	クロガモほか
26	野鳥剥製（川や湿地などの水辺）	16	剥製	双葉町教育委員会、当館	タゲリ、オオバンほか
27	野鳥剥製（平地や山地）	18	剥製	双葉町教育委員会、個人、当館	クマタカ、カワガラスほか
28	生息地景観写真	3	写真	個人	
<b>6. おだかの昆虫</b>					
<b>おだかのチョウ</b>					
29	昆虫標本	46	標本	個人、当館	ジャコウアゲハ、ミドリシジミほか
30	生態写真	20	写真	個人、当館	スギタニルリシジミほか
<b>おだかのトンボ</b>					
31	昆虫標本	35	標本	当館	ムカシトンボほか
32	ギンヤンマ巨大模型	1	模型	那須野が原博物館	全長 2 m ・ 全幅 3 m
<b>おだかの水辺のカメムシ・コウチュウ</b>					
33	昆虫標本	107	標本	個人、当館	タイコウチ、マルガタゲンゴロウほか
<b>おだかの陸生のコウチュウ</b>					
34	昆虫標本	54	標本	当館	ツバキシギゾウムシほか
35	標本拡大写真	8	写真	個人	
<b>おだかのアリ・バッタ</b>					
36	昆虫標本	174	標本	当館	トフシアリ、スズムシほか
37	標本拡大写真	7	写真	個人	
<b>おだかの川底でくらす昆虫</b>					
38	昆虫標本	1,200	標本	個人	トビケラ、カゲロウ類ほか
39	トビケラ拡大ぬいぐるみ（さわられるコーナー）	2	模型	当館	ムラサキトビケラほか
総資料点数		約1,986点（一部概算を含む）			

(2) 「<sup>なか</sup>五<sup>さる</sup>月中の申 御野馬追」

[担当学芸員] 二上文彦

[期 間] 令和6年5月21日～8月18日 79日間

[観覧者数] 2,226人（一般1,965人、高校生26人、小・中学生235人）

[内 容] 国指定重要無形民俗文化財「相馬野馬追」は、令和6年、日程が7月から5月開催に変更されるという大きな変革があり、新たな歴史を刻むこととなった。

そもそも野馬追の日程は、民謡「相馬流れ山」の歌詞にもあるように、旧暦「五月中の申」の日を中心に行われ、明治時代以降の改暦後、何度かの変更を経て現在に至っている。ここでは、これまでの野馬追の日程を中心に、その歴史をふり返るものとした。



企画展「五月中の申 御野馬追」の一部（野馬追大絵図）

## [展示構成]

1. 江戸時代の野馬追 —「五月中の申の日」だった頃—
2. 変わってきた野馬追の日程 —明治時代の改暦後—
3. 野馬追の華 —武具類—

## [関連事業]

## • 企画展解説会

日時：令和6年6月23日 ①10時～ ②13時30分

解説：二上文彦学芸員

参加者数：25人

## • 講座「野馬追の精神と藩政への影響について」

日時：令和5年5月28日 13時30分～15時30分

講師：二上裕嗣氏（元福島県立医科大学非常勤講師）

参加者数：33人

## [展示資料]

No.	名称	備考（作者・制作年など）	所蔵等
<b>1. 江戸時代の野馬追 —「五月中の申の日」だった頃—</b>			
1	奥州相馬妙見祭 其二 野馬追之図	木版刷 江戸時代後期 一立斎広重写	当館
2	大日本国郡名所 「奥州宇田(宇多)郡 中村」	木版刷 明治元年(1868) 橋本玉蘭斎貞秀画	個人
3	相馬野馬追額（複製）	額絵馬 江戸時代後期か 原資料：福島県指定重要有形民俗文化財	当館（原資料：相馬小高神社）
4	野馬追之記	延享元年（1744）	相馬家
5	相家故事秘要集（下巻）	延享2年（1745）	相馬家
6	野馬追備列絵巻（殿 御旗本備）	紙本着色 卷子 江戸時代後期 作者不明	当館
7	相馬祭之図	紙本著色 卷子 江戸時代 作者不明	館岡敏美氏
8	御年譜 六 忠胤公御代	寛文5年（1665）5月	相馬家
9	萬栄日録 一（尊胤公御年譜）	正徳元年（1711）	相馬家
10	萬栄日録 四（尊胤公御年譜）	享保13年（1728）	相馬家
11	野馬追大絵図（相馬野駒追大絵図）	紙本著色 江戸時代 作者不明	内藤進氏
<b>2. 変わってきた野馬追の日程 —明治時代の改暦後—</b>			
12	磐城国相馬三社祭礼行列之図	木版刷 明治11～36年（1878～1903） 山形県松寿堂作	当館
13	海岸タイムス 相馬野馬追号	大正2年（1903）7月11日付 海岸タイムス社	佐藤重郎氏
14	野馬追絵はがき（川に浸かって御行列を待つ騎馬武者）	近代（年代不明）	佐藤健一氏
15	野馬追絵はがき（近代の御行列）	明治時代後期か	佐藤健一氏
16	野馬追絵はがき（嘉仁親王〔大正天皇〕が台覧した野馬追行列）	明治41年（1908）10月9日	佐藤健一氏
17	野馬追絵はがき（かつての雲雀ヶ原）	大正9年（1920）以降	佐藤健一氏
18	野馬追絵はがき（近代の神旗争奪戦）	近代（年代不明）	佐藤健一氏
19	野馬追絵はがき（民謡相馬流れ山）	大正末期～昭和初期か	佐藤健一氏
20	相馬地方名勝案内	昭和5年（1930） 仙台鉄道局発行	佐藤健一氏
21	全国之豪華大祭典行列絵巻	昭和12年（1937）7月 荒川儀八発行	当館

No.	名 称	備考（作者・制作年など）	所蔵等
22	講武会綴	昭和18年～20年（1943～45）	佐藤重郎氏
23	相馬野馬追ポスター	昭和32年（1957）、昭和35年（1960）、昭和40年（1965）、昭和45～51年（1970～76）、昭和49年（1974）、平成元年（1989）、平成23年（2011）	当館
24	昭和36年度相馬野馬追事業計画書（案）	昭和35年（1960）10月 第6回原町市議会 付随資料	南相馬市議会事務局
25	映像「相馬野馬追 戦国を駆けぬける男たち」	平成3年（1991）企画・制作：原町市 協力：第一法規出版㈱	当館
<b>3. 野馬追の華 — 武具類 —</b>			
26	金箔押皺韋包伊予札縹糸綴腰取二枚胴具足	江戸時代中期 兜銘「明珍吉次作」	個人
27	黒漆塗本小札萌黄糸威腰取丸胴具足	江戸時代	個人
28	青漆塗伊予札啄木打糸威二枚胴具足	江戸時代 眉庇裏「義通」銘	個人
29	稲穂に蜻蛉文蒔絵水干鞍	江戸時代	個人

### （3）浦尻貝塚縄文の丘公園オープン記念「縄文 みなみそうま」

[担当学芸員] 川田 強・森 幸彦

[期 間] 令和6年9月21日～11月24日 56日間

[観覧者数] 1,803人（一般1,629人、高校生32人、小・中学生142人）

[内 容] 縄文時代は、日本列島において今から1万6000年前に始まり、米作りが始まる2300年前（弥生時代）まで、1万年以上続いた時代である。令和6年9月、南相馬市小高区にある縄文時代の国史跡浦尻貝塚が「浦尻貝塚縄文の丘公園」として開園した。本企画展はこのオープン記念として開催し、市内に残された縄文時代に生きた人びとの足跡を紹介する展示を行った。

博物館に寄贈された故竹島國基氏の収集資料（竹島コレクション）を活用して、南相馬市内の多くの縄文遺跡と遺物を紹介するとともに、編みかご類がたくさん出土した鹿島区鷺内遺跡、複式炉を持つ住居跡が多く見つかった原町区東町遺跡、縄文時代の漁労文化を物語る浦尻貝塚を中心に展示を行い、狩猟・漁労・採集活動や集落のようす、精神文化をも理解できるように構成した。

[展示構成]

1. 縄文時代とは？
2. 南相馬市内の縄文遺跡
3. 縄文のむら
4. 縄文時代の道具いろいろ
5. 縄文時代の編みかご類 ～鷺内遺跡～
6. 縄文マジカルツール
7. 自然とともに ～浦尻貝塚～



企画展「縄文みなみそうま」の一部

[関連事業]

- ・講演会「縄文時代のかごづくり — 鹿島区鷺内遺跡の調査結果から —」

日時：11月24日 13時30分～15時

講師：佐々木由香氏（金沢大学特任准教授）

参加者数：49人

- ・展示解説会①

日時：9月22日 13時30分～15時

講師：川田 強

参加者数：24人

・展示解説会②

日時：10月19日 13時30分～15時

講師：森 幸彦

参加者数：15人

・体験講座「さわって、みて、感じる縄文世界」6回 全回とも13時30分～15時

① 9月23日 参加者数：15人

② 9月29日 参加者数：30人

③ 10月14日 参加者数：12人

④ 10月27日 参加者数：7人

⑤ 11月4日 参加者数：7人

⑥ 11月17日 参加者数：27人

・浦尻貝塚縄文の丘公園オープン記念コラボイベント

① 「こんだあきこさんと歩く浦尻貝塚縄文ツアー」

日時：9月21日 13時～15時30分

講師：譽田亜紀子氏（文筆家）

参加者数：39人

② 「こんなに楽しい、浦尻貝塚！ ～土偶女子とアーティストが語るその魅力～」

日時：10月26日 13時～15時

講師：譽田亜紀子氏（文筆家）、安芸早穂子氏（画家）

参加者数：44人

[展示資料]

No.	遺跡名（区名等）	分類／資料名	時期	点数	所蔵
<b>I 縄文時代とは？</b>					
1	原町西町遺跡（原町）	縄文土器／爪形文土器	草創期	1	当市教育委員会
2	—	写真パネル／爪形文の付け方		1	当市教育委員会
3	三貫地貝塚（新地町）	写真パネル／22号人骨出土状況		1	福島県立博物館
4	石倉遺跡（原町）	石鏃（アスファルト付着石器）		1	当館
<b>II 南相馬市内の縄文遺跡</b>					
<b>1 竹島コレクション</b>					
5	—	写真パネル／竹島国基氏肖像		1	福島県立博物館
6	—	竹島ノート		13	当館
<b>2 鹿島区の縄文遺跡</b>					
7	八幡林遺跡	縄文土器／土器片	中期	1	当館
8	宮後A遺跡	縄文土器／土器片 石器／黒曜石剥片	後期	1 4	当館
9	植ノ畑遺跡	縄文土器／土器片 石器／打製石斧	後晩期	2 2	当館
10	御所内遺跡	縄文土器／土器片 石器／石鏃、磨製石斧	晩期	3 7	当館
<b>3 原町区の縄文遺跡</b>					
11	宮平遺跡	縄文土器／土器片 石器／石鏃、石匙	前期	3 12	当館
12	前田遺跡	縄文土器／土器片 石器／石鏃、石錐、石匙、磨製石斧	中後期	2 7	当館

IV 令和6年度事業実施概要

No.	遺跡名（区名等）	分類／資料名	時期	点数	所 蔵
13	植松A遺跡	縄文土器／土器片 石器／打製石斧	中期	3 2	当館
14	天神谷地遺跡	写真パネル／土偶頭部	晩期	1	福島県教育委員会
		縄文土器／土器片 石器／石鏃、磨製石斧	晩期	4 9	当館
15	石倉遺跡	石器／石鏃、石錐、石匙		24	当館
16	羽山遺跡	縄文土器／土器片 石器／石鏃、石錐、磨製石斧ほか	後晩期	7 15	当館
<b>4 小高区の縄文遺跡</b>					
17	荻原遺跡	縄文土器／土器片 石器／磨製石斧、ヘラ状石器	早期	4 6	当館
18	大田和広畑遺跡	縄文土器／土器片 石器／石鏃、石錐、磨製石斧	後期	2 17	当館
19	片草貝塚	縄文土器／土器片 貝類／ウミニナ、イボキサゴ、アサリ、マガキほか 歯牙製品／牙斧 石器／石鏃、石匙、磨製石斧ほか	前期	2	当館
			前期	-	
			前期	1 6	
20	北原貝塚	縄文土器／土器片 石器／石匙、磨製石斧 貝類／イボキサゴ、アサリ、カガミガイほか	前期	9	当館、当市教育委員会
			前期	6	当館
			前期	-	当館
21	宮田貝塚	石器／石鏃、石錐、ヘラ状石器、石匙、磨製石斧 骨角器／鹿角製釣針、鹿角製刺突具 石製品／玦状耳飾り 貝類／イボキサゴほか 魚骨／サメ類、エイ類、スズキ、クロダイほか 動物骨／シカ、イノシシ、イヌ、タヌキ、キツネほか 鳥骨／カモ類、ウミウ、シギ類、キジほか 人骨／頭蓋骨、大腿骨	前期	26	当市教育委員会
			前期	5	
			前期	3	
			前期	-	
			前期	-	
			前期	-	
			前期	-	
			前期	-	
<b>III 縄文のむら</b>					
22	原B遺跡（原町）	写真パネル／6号住居跡	早期	1	福島県教育委員会
23	東町遺跡（原町）	写真パネル／9号住居跡と原町第一小学校 児童、15号住居跡内複式炉	中期	2	当市教育委員会
No.	資料名〔遺跡名：区名〕		時期	点数	所 蔵
<b>IV 縄文時代の道具いろいろ</b>					
<b>1 縄文土器</b>					
24	爪形土器片〔原町西町遺跡：原町〕		草創期	1	当市教育委員会
25	尖底深鉢（条痕土器）〔赤柴遺跡・原B遺跡：原町〕		早期	2	福島県教育委員会
26	深鉢（大木1式ほか）〔宮田貝塚：原町〕		前期	4	当市教育委員会
27	深鉢（花積下層式・大木5式）〔赤柴遺跡：原町〕		前期	2	福島県教育委員会
28	深鉢（大木7a・7b式）・浅鉢（大木7b式）〔植松C遺跡：原町〕		中期	8	福島県教育委員会
29	深鉢（大木7b・8a式）〔宮前遺跡：鹿島〕		中期	2	福島県教育委員会
30	深鉢（大木8a式）〔吉名中坪遺跡：小高〕		中期	3	当市教育委員会
31	深鉢（大木8a・9式）〔浦尻貝塚：小高〕		中期	2	当市教育委員会
32	深鉢（大木9式）〔滝ノ原遺跡・植松A遺跡：原町〕		中期	2	当館
33	浅鉢・深鉢（大木10式）〔大田和広畑遺跡：小高〕		中期	2	当市教育委員会
34	壺形土器（大木10式）〔東町遺跡：原町〕		中期	1	当市教育委員会
35	注口深鉢・人体文付土器（大木10式）〔宮後B遺跡：鹿島〕		中期	2	当館
36	深鉢（大木10式）〔東町遺跡：原町〕		中期	2	当市教育委員会
37	深鉢・吊手土器・香炉形土器・注口土器ほか（加曾利B2～B3式）〔赤柴遺跡：原町〕		後期	11	福島県教育委員会

No.	資料名〔遺跡名：区名〕	時期	点数	所蔵
38	深鉢（網取1式）〔赤柴遺跡：原町〕	後期	1	福島県教育委員会
39	深鉢（新地式）〔原町西町遺跡：原町〕	後期	2	当市教育委員会
40	深鉢（大洞B式）〔高見町A遺跡：原町〕	晩期	2	当市教育委員会
41	注口土器（大洞A式）〔一杯清水遺跡：鹿島〕	晩期	1	当館
42	ミニチュア土器（大洞BC式）〔石倉遺跡：原町〕	晩期	3	当館
43	壺形土器・浅鉢・深鉢ほか（大洞A式）〔羽山遺跡：原町〕	晩期	5	当館
44	製塩土器〔原町西町遺跡：原町〕	晩期	1	当市教育委員会
45	製塩土器片〔浦尻貝塚・磯坂遺跡：小高〕	晩期	13	当市教育委員会
46	製塩土器片〔中才遺跡：鹿島〕	晩期	9	当市教育委員会
47	鉢形土器（大洞A'式）〔磯坂遺跡：小高〕	晩期	1	当市教育委員会
<b>2 石の道具</b>				
48	石鎌〔神山*ほか：小高〕		21	当館
49	石錐〔御所内遺跡ほか：鹿島〕		17	当館
50	石匙〔原遺跡ほか：原町〕		7	当館
51	石槍・石ベラ〔赤柴遺跡ほか：原町〕		11	当館
52	打製石斧・磨製石斧〔石倉遺跡ほか：原町〕		13	当館
53	石皿〔滝ノ原遺跡：原町〕		1	当館
54	磨石〔浦尻貝塚：小高〕		1	当市教育委員会
<b>3 骨や角で作った道具（骨角器）</b>				
55	シカ角製釣り針・刺突具、エイ尾棘製刺突具〔北原貝塚・宮田貝塚：小高〕	前期	14	当市教育委員会
56	ハマグリ製貝刃〔北原貝塚：小高〕	前期	4	当市教育委員会
57	イノシシ犬歯製牙斧〔片草貝塚・浦尻貝塚：小高〕	前期	3	当市教育委員会
58	土錘〔浦尻貝塚：小高〕	中後期	11	当市教育委員会
59	軽石製浮子〔宮田貝塚：小高〕	前期	1	当市教育委員会
<b>V 縄文時代の編みかご類 ～鷺内遺跡～</b>				
60	写真パネル／鷺内遺跡調査状況〔鷺内遺跡：鹿島〕	晩期	15	当市教育委員会
61	1号・2号AB・3号・4号（クルミかご）・5号・6号・7号・8号・9号・10号・11号・12号・13号・14号・15号・16号AB・17号・18号・19号編組製品〔鷺内遺跡：鹿島〕	後期	21	当市教育委員会
62	1号編組製品〔中才遺跡：鹿島〕	晩期	1	当市教育委員会
<b>VI 縄文マジカルツール</b>				
<b>1 再生を祈る土器</b>				
63	人面把手〔石倉遺跡：原町〕	中期	1	当館
<b>2 再生を祈る土偶</b>				
64	土偶〔赤柴遺跡：原町〕	早期	2	福島県教育委員会
65	土偶〔北原貝塚・浦尻貝塚：小高〕	前期	2	当市教育委員会
66	土偶〔前田遺跡・堂坂遺跡：原町〕	中期	2	当館
67	土偶〔植松C遺跡：原町〕	前中期	9	福島県教育委員会
68	土偶〔大富*：小高〕	中期	1	当館
69	土偶〔石倉遺跡・前田遺跡・下荒井遺跡：原町〕	後期	3	当館
70	土偶〔浦尻貝塚：小高〕	後期	2	当市教育委員会
71	土偶〔上栢窪大谷*：鹿島〕	後期	1	当館

## IV 令和6年度事業実施概要

No.	資料名〔遺跡名：区名〕	時期	点数	所蔵
72	土偶〔植ノ畑遺跡：鹿島〕	後期	1	福島県立相馬高等学校
73	土偶〔浦尻貝塚：小高〕	晩期	4	当市教育委員会
74	土偶〔大田和広畑遺跡：小高〕	晩期	1	当館
75	土偶〔羽山遺跡：原町〕	晩期	2	当館
76	遮光器土偶（頭部）〔浦尻貝塚：小高〕	晩期	1	当市教育委員会
77	遮光器土偶（左腕部）〔植ノ畑遺跡：鹿島〕	晩期	1	福島県立相馬高等学校
78	遮光器土偶（左腕部）、有髯土偶〔羽山遺跡：原町〕	晩期	2	当館
79	有髯土偶（写真パネル）〔天神谷地遺跡：原町〕	晩期	1	福島県教育委員会
<b>3 再生を祈る石棒</b>				
80	石棒〔八竜*：原町〕	後期	1	当館
81	石棒、石棒未製品〔植ノ畑遺跡：鹿島〕	晩期	2	福島県立相馬高等学校
82	石棒〔石倉遺跡：原町〕	晩期	2	当館
83	石剣〔鷺内遺跡：鹿島〕	晩期	1	当市教育委員会
84	石剣〔大田和広畑遺跡：小高〕	晩期	2	当館
85	石刀〔羽山遺跡：原町〕	晩期	1	当館
86	石棒〔宮下遺跡：原町〕	晩期	1	福島県立相馬高等学校
<b>4 ふしぎなモノたち</b>				
87	スタンプ状土製品〔羽山遺跡：原町〕		2	当市教育委員会
88	三叉状土製品〔浦尻貝塚：小高〕	後期	1	当館
89	鳥形把手〔高松遺跡：原町〕	中期	4	当館
90	有孔有文土製品、分銅形土製品〔浦尻貝塚：小高〕	後晩期	2	当市教育委員会
91	土器片製円板〔浦尻貝塚：小高〕	中後期	14	当市教育委員会
92	有孔有文土製品〔赤柴遺跡：原町〕	後期	1	当館
93	三角形土製品〔大富*：小高〕		1	当館
94	鯨刀〔浦尻貝塚：小高〕	中期	1	当市教育委員会
95	土版〔原町西町遺跡：原町〕	晩期	1	当市教育委員会
96	独鈷石〔大田和広畑遺跡：小高〕	晩期	2	当館
<b>5 身を飾る</b>				
97	塊状耳飾り〔浦尻貝塚・宮田貝塚：小高〕	前期	4	当市教育委員会
98	塊状耳飾り〔犬這遺跡：原町〕	前期	1	当館
99	土製塊状耳飾り〔浦尻貝塚：小高〕	前期	2	当市教育委員会
100	土製鼓状耳飾り〔植松C遺跡：原町〕	前中期	4	福島県教育委員会
101	土製鼓状耳飾り〔浦尻貝塚〕	後晩期	5	当市教育委員会
102	石製垂飾品〔浦尻台ノ前貝塚：小高〕		1	当館
103	石製垂飾品〔浦尻貝塚：小高〕	中期	1	当市教育委員会
104	石製垂飾品〔高倉堂前*・石倉遺跡：原町〕		24	当館
105	土製垂飾品〔原町西町遺跡：原町〕	後晩期	1	当市教育委員会
106	サメ歯製垂飾品、タヌキ歯製垂飾品〔浦尻貝塚：小高〕	中期	4	当市教育委員会
107	シカ骨？製垂飾品、シカ骨製垂飾品〔浦尻貝塚：小高〕	晩期	2	当市教育委員会
108	シカ骨製垂飾品〔浦尻貝塚：小高〕	中後期	1	当市教育委員会
109	イノシシ犬歯製垂飾品〔浦尻貝塚：小高〕	晩期	1	当市教育委員会
110	サトウガイ製貝輪、イタボガキ製貝輪未製品〔浦尻貝塚：小高〕	中期	2	当市教育委員会

No.	資料名〔遺跡名：区名〕	時期	点数	所蔵
<b>VII 自然とともに ～浦尻貝塚～</b>				
111	シカ角製釣り針、エイ尾棘製刺突具〔浦尻貝塚：小高〕	中期	3	当市教育委員会
112	シカ角製釣り針・やじり・刺突具・組み合わせ式ヤス・挟み込み式ヤス・魚鉤状製品、鳥骨製刺突具〔浦尻貝塚：小高〕	晩期	9	当市教育委員会
113	糞石〔北原貝塚：小高〕	前期	5	当市教育委員会
114	下顎骨（人骨）〔浦尻貝塚：小高〕	中期	1	当市教育委員会
115	アサリ、ハマグリ、ウナギ、スズキ、シカ、イノシシほか〔浦尻貝塚：小高〕	前～晩期	-	当市教育委員会
116	シカ骨〔浦尻貝塚：小高〕	中期	-	当市教育委員会

\*小高区の神山（48）・大富（68・93）、鹿島区の上柵窪大谷（71）、原町区の八竜（80）・高倉堂前（104）は、現在登録されている遺跡に該当させることができない。

その他、常設展示の一画に「浦尻貝塚 福島大学1971年の調査」として、福島大学による浦尻貝塚初の学術調査によって出土した縄文土器や石器、土偶などを初めて公開した。

〔担当学芸員〕 川田 強

〔展示資料〕 浦尻貝塚第1号住居跡の複式炉に埋設された土器

#### （４）「寄贈コレクションで見る日本近現代の彫刻」

〔担当学芸員〕 堀 耕平

〔期 間〕 前期：令和7年1月11日～2月16日 32日間

後期：令和7年2月19日～3月30日 35日間

〔観覧者数〕 1,959人（一般1,468人、高校生9人、小・中学生482人）

〔内 容〕 令和元年（2019）に、ブロンズ彫刻を中心とする52点のコレクションが収集者（故人）の遺族から市に寄贈された。これら作品の35人の作家は、日本芸術院会員11人を含む近現代の日本の彫刻芸術を牽引した高名な彫刻家と、彼らに多くの影響を与えたイタリアの巨匠である。また、本コレクションは、作家それぞれの活動経歴や互いの師弟関係や交友関係から、日本近現代彫刻芸術の展開の一側面を物語る内容となっている。本展では、本市に所在する、このような性格を有する彫刻作品を、借用作品も含め広く公開し、その魅力を紹介した。



企画展「寄贈コレクションで見る日本近現代の彫刻」の一部

展示監修：吉野 毅氏（日本芸術院会員、公益社団法人二科会常務理事、一般社団法人日本美術家連盟理事）

展示協力：阿部昌義氏（公益社団法人二科会会員、宗教法人長泉院附属現代彫刻美術館学芸員）、  
須田美紀子氏（公益社団法人二科会会員）

〔関連事業〕

- ・講座「彫刻の見かた・楽しみかた」

日時：令和7年2月16日 13時30分～15時

講師：吉野 毅氏 参加者数：120人

- ・ワークショップ「みんなで描く野馬追行列」

日時：令和7年3月9日 13時30分～15時

講師：須田美紀子氏 参加者数：8人

IV 令和6年度事業実施概要

[展示作品] (作家の生年順) ○: 展示時期 \* : 借用作品 △: 賛助出品作品

No.	前期	後期	作家名	作品名	制作年	No.	前期	後期	作家名	作品名	制作年
1	○	○	アントワヌ・ブールデル	* 果実の裸婦	1906	31		○	中村晋也	ミゼレーレV - 聖なるかな1	1996
2		○	アントワヌ・ブールデル	* アポロンの頭部	1898-1900	32	○	○	桑原巨守	髪	1982
3	○	○	中原悌二郎	老人	1910	33	○	○	橋本堅太郎	竹園生	1995
4	○	○	木内克	見つけたポーズ	1954	34	○		橋本堅太郎	少女	2018
5		○	清水多嘉示	イレーヌ嬢	1925	35		○	雨宮敬子	ひとり	1971
6	○		清水多嘉示	みみずく	1960	36	○		雨宮敬子	二月の女	1984
7		○	清水多嘉示	裸婦 やすらぎ	1970	37	○		澄川喜一	裸婦	1958頃
8	○		清水多嘉示	裸婦	1970	38		○	蛭田二郎	シルビア・セッテカーシ	1978
9		○	高田博厚	女優のマスク	1936	39	○		市村緑郎	すぎし日	2013
10	○	○	高田博厚	憩い	1961	40		○	雨宮淳	志動	不詳
11		○	高田博厚	美しきエミーII	1963	41	○		高橋洋	若い女	1978
12		○	古賀忠雄	マドリッドの女	1964	42		○	沖村正康	若きリサ	1985
13	○		古賀忠雄	じあい	不詳	43	○		瀬戸剛	女	2003頃
14	○	○	柳原義達	道標・鳩	1973	44		○	宮田亮平	シュプリングエン	2009
15	○	○	淀井敏夫	* ナイルの夜明け	1980	45	○		増山俊春	少女	1986
16		○	佐藤忠良	* トラフズク	1974	46		○	増山俊春	若い女	1987
17	○		佐藤忠良	Y子の顔	1979	47	○		津田裕子	風たつ	1987
18	○	○	舟越保武	* 原の城	1964	48		○	津田裕子	結子	1989
19		○	舟越保武	S嬢	1976頃	49		○	渡辺治美	愛	2009
20	○		舟越保武	聖クララ	1981	50		○	長谷川由美	画家	2016
21	○		千野茂	砂丘	1981	51	○		小寺真知子	太陽の賛歌	1990
22	○		ヴェナンツォ・クロチェッティ	* 若い女の頭部	不詳	52	○		石黒光二	LEGEND	1992
23		○	ヴェナンツォ・クロチェッティ	* 雄鶏	1961	53		○	石黒光二	幻想曲	2003
24	○		エミリオ・グレコ	* エイコ	1968	54	○		北郷悟	From the sky	2009
25		○	エミリオ・グレコ	パオラ・タッシの肖像	1969	55		○	伊藤馨一	聖められた夜	2000
26		○	北村治禧	聞く	1974	56	○		吉野毅	△ブロンド	1983
27		○	伊東傀	(不詳)	1976	57		○	吉野毅	△聖(ザビエル)	1996
28	○	○	朝倉響子	若い女	1967	58		○	吉野毅	△三島由紀夫	
29	○		長江録彌	* 鳥	1996	59		○	吉野毅	△惟(三島由紀夫)	2006
30	○		中村晋也	MAE嬢	1990	60	○		阿部昌義	△静謐の季節	2022

## 2. その他の展示事業

### (1) ミニテーマコーナー

常設展示室の一部に小展示スペースを設け、学芸調査による研究成果の一部を展示した。

#### ① 博物館の辰年コレクション

[担当学芸員] 二上文彦・仲川邦広

[期 間] 令和6年1月4日～5月9日

[内 容] 令和6年(2024)の干支「辰」にちなみ、龍に関する博物館資料を紹介。

[展示資料] 三春張子人形「辰」、クジラの椎骨化石、廻り兜、黒漆塗馬面、山丹服(中国清朝時代)

#### ② 変わった形の「変わり兜」

[担当学芸員] 二上文彦

[期 間] 令和6年5月10日～8月18日

[内 容] 江戦国時代あたりから江戸時代にかけて流行した、個性的な兜を紹介。

[展示資料] 廻り兜、総髪形兜(個人蔵)、唐冠形兜、総髪桃形兜、越中頭形兜

#### ③ チラシと写真から見る街のにぎわい

[担当学芸員] 森 晃洋

[期 間] 令和6年8月20日～7年1月31日

[内 容] チラシや昭和30～50年代の原ノ町駅前通りの写真、原ノ町駅の時刻表、商店街地図から、街のにぎわいや「昭和」の懐かしさを紹介。

[展示資料] 原ノ町駅前通りの商店のチラシ、原ノ町駅発列車・バス時刻表

#### ④ 婚礼の装いー花嫁のすがた

[担当学芸員] 佐藤義典

[期 間] 令和7年2月1日～5月6日

[内 容] 昭和初期から中期に使われた花嫁衣裳を実物と写真で紹介。

[展示資料] 髪飾り、色打掛、振袖



ミニテーマコーナー 「博物館の辰年コレクション」(上)「チラシと写真から見る街のにぎわい」(左)「婚礼の装いー花嫁のすがた」(右)の展示

(2) エントランスホール展示

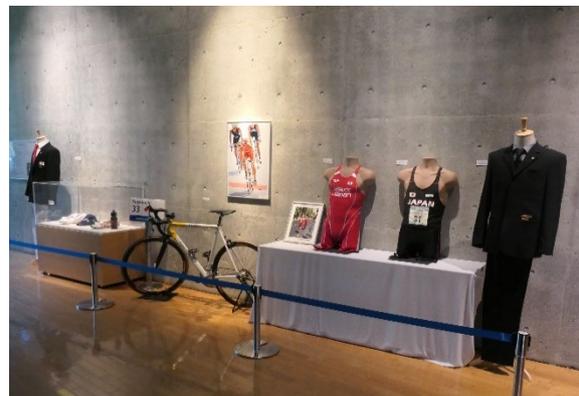
季節の話題・ニュース性があるテーマ、また常設展・企画展の導入としてエントランスホールを活用し、展示や情報提供を行った。

テーマ [担当学芸員]	展示期間	資料名
メダカ、ドジョウ (生態展示) [仲川邦広]	常 設 *令和5年8月に水槽 増設	市内流域に野生で生息するミナミメダカと外来種の淡水エビ、ヒガシマドジョウ、ホトケドジョウなど
みなみそうま地域学術団体紹介コーナー 自然と歴史ぶんかの窓 [仲川邦広]	常 設	日本野鳥の会南相馬ほか、市内で活動する学術団体の紹介、活動情報の掲載等
文化庁選定「食文化ミュージアム」に南相馬市博物館が認定されました! [川崎 悠]	令和4年 7月14日～	新聞記事紹介パネル
相双地方の焼き物 [堀 耕平]	令和6年 1月7日～12月28日	大堀相馬焼 (龍貼付文花瓶:大・中、鯉の滝登り貼付文飴裕徳利)
オダカクジラ化石 (企画展「しらべてわかった! おだかの自然」導入) [仲川邦広]	3月26日～5月11日	オダカクジラ化石 (左右下顎骨、胸椎、上腕骨)
キムリエラ・デンシフォリア新指定記念 (南相馬市天然記念物) [二上文彦・仲川邦広]	4月23日～6月13日	キムリエラ・デンシフォリア (ホロタイプ標本、エビタイプ標本、雄花、雌花、葉)
南相馬味めぐり 夏編2024 [川崎 悠]	5月11日～7月2日	郷土料理レプリカ (アミコのおろし和え、味噌おにぎり、ナスとキノコのじんだ和え、ホッキカレー、ホッキ飯、じゃがいもの味噌炒め)
甲冑～赤と黒のコントラスト [二上文彦]	5月12日～9月11日	朱漆塗伊予札二枚胴具足、黒漆塗五枚胴具足 (仙台胴)
南相馬味めぐり 夏の食べもの編2024 [川崎 悠]	7月3日～9月11日	郷土料理レプリカ (キュウリの味噌汁、梅干し、ナスとキノコのじんだ和え、カツオの焼き漬け、ホッキ飯、しそ巻とせつぷく南蛮)
南相馬の和紙づくり (講座「ふくしまの森林文化 一上川崎和紙一」関連展示) [佐藤義典]	7月28日～31日	楮蒸し釜、叩き盤、叩き棒 (角形と丸型)
南相馬市のオリンピックアン 西内洋行選手 (トライアスロン) [堀 耕平]	7月30日～12月1日	2000年シドニーオリンピック関連資料 (日本選手団ユニフォーム、競技ユニフォーム) 2004年アテネオリンピック関連資料 (日本選手団ユニフォーム・シューズ・キャップ、競技ユニフォーム・ランニングシューズ・バイク・バイクボトル)

エントランスホール展示



キムリエラ・デンシフォリア 新指定記念 (南相馬市天然記念物)



南相馬市のオリンピックアン 西内洋行選手 (トライアスロン)

テーマ [担当学芸員]	展示期間	資料名
体験学習成果展示「昆虫標本 つくりました！」[仲川邦広]	令和 6 年 8 月18日～30日	体験学習「東ヶ丘公園で昆虫観察&標本を作ろう」(8/3) 参加者作製昆虫標本
平和首長会議 原爆ポスター展 [佐藤義典]	8 月27日～9 月16日	平和首長会議 (事務局：広島文化平和センター) 提供ポスター18点
企画展「縄文みなみそうま ー南相馬市内の縄文遺跡」 [森 幸彦]	9 月 12日～11月24日	竹島コレクション縄文遺跡資料 鹿島区 (八幡林遺跡、宮後A・B遺跡、植ノ畑遺跡、御所内遺跡)、原町区 (宮平遺跡、植松A遺跡、前田遺跡、天神谷地遺跡、石倉遺跡、羽山遺跡)、小高区 (萩原遺跡、大井花輪遺跡、大田和広畑遺跡、片草貝塚、北原貝塚)
南相馬味めぐり 秋編2024 [川崎 悠]	9 月12日～12月 6日	郷土料理レプリカ (菊の酢のもの、干し柿、イナゴの佃煮、イチジク煮、栗ご飯)
新しい年へ 年取りと正月の 食べ物 [川崎 悠]	12月 7日～ 令和 7年 1月26日	郷土料理レプリカ (アカアカ餅、豆腐餅、大根おろし餅、納豆餅、子持ちカレイの煮付け、塩引き[どぶ漬け]、煮しめ、いかにんじん)
相双地方の焼き物 [堀 耕平]	令和 7年 1 月 4日～	相馬駒焼 (伝 6 代作 鉄絵走馬文大皿、12代作 蝶文象嵌花瓶：900年パリ万国博覧会 2 等賞) 大堀相馬焼 (山水文皿、おかめ酒徳利)
へび 屋根裏の火伏せ呪具 [佐藤義典]	1 月 4日～3 月30日	市指定文化財「旧門馬家所蔵火伏せ資料、外火伏せ資料」、火伏せ呪具レプリカ、鹿島御子神社の灯籠
南相馬味めぐり 早春編2025 [川崎 悠]	1 月28日～3 月19日	郷土料理レプリカ (アイナメのたたき、コウナゴのかき揚げ、生青海苔の酢のもの、生青海苔の天ぷら、ハマボウフウの天ぷら、ハマボウフウの酢味噌和え、アサツキの酢味噌和え)
南相馬味めぐり 春編2025 [川崎 悠]	3 月20日～5 月31日	郷土料理レプリカ (生青海苔の酢のもの、生青海苔の天ぷら、コゴミの胡麻和え、タケノコご飯、山菜の天ぷら、柏餅)

## エントランスホール展示



甲冑～赤と黒のコントラスト



体験学習成果展示「昆虫標本つくりました！」(体験学習「東ヶ丘公園で昆虫観察&amp;標本を作ろう」で参加者が作成した昆虫標本)



新しい年へ 年取りと正月の食べ物

### (3) 野外展示

館外に本市に関連する資料の展示を行った。



C50型蒸気機関車

#### ① 蒸気機関車

[期 間]

平成11年（1999）8月26日から現在地に常設展示

[展示資料] 標準旅客用機関車

C50型103号機、テンダー

[資料内容] 昭和5年（1930）3月に製造。

昭和20年（1945）11月から常磐線平機関区に配備され、昭和45年（1970）4月に廃車となったもの。

#### ② 原町無線塔頭部

[期 間]

平成9年（1997）8月20日から現在地に常設展示

[展示資料]

磐城無線電信局原町送信所主塔頭部

[資料内容] 大正10年（1921）7月に開局した対米無線局・磐城無線電信局原町送信所の主塔頭部。副柱へワイヤーを張って巨大アンテナを形成するための滑車が付属する。

高さ201メートルの鉄筋コンクリート塔は、開局当時“東洋一”と称され、大正12年（1923）の関東大震災の惨状をサンフランシスコに打電し、世界各国からの援助を導いた。昭和57年（1982）に解体され、頭部のみ現存する。



磐城無線電信局原町送信所主塔頭部



パンタネリウム

#### ③ パンタネリウム

[期 間]

平成30年（2018）3月29日～

[展示資料] パンタネリウム

[資料内容] 平成29年度福島県事業「アートによる新生ふくしま交流事業」の一環として、アーティスト君平氏が制作した鉄製オブジェ。鹿島区の小山田層（中生代白亜紀初期）の地層から産出する微化石「パンタネリウム」を表現した作品。

(4) かしま交流センター展示

鹿島区に関連する資料として、一杯清水遺跡出土の注口土器（縄文晩期）を展示した。

[担当学芸員] 堀 耕平

[期 間] 平成31年（2019）4月1日～令和6年6月13日

[展示資料] 縄文土器、解説パネル

(5) おだか交流センター展示

現在のおだか交流センターにあった、明治4年（1871）創業の呉服店「綿屋」に関連する資料を展示。

[担当学芸員] 佐藤義典

[期 間] 令和2年（2020）12月16日～

[展示資料] 大正8年（1919）福島県小高町案内図、綿屋呉服店写真、綿屋呉服店看板、綿屋呉服店包装紙、綿屋創業88周年記念手拭い



おだか交流センター展示「綿屋創業88周年記念手拭い」

(6) 小高区子どもの遊び場「NIKO パーク」展示

本市が、復興五輪である東京2020大会に積極的に参画した記録として広く市民に周知するための展示を行った。

[担当学芸員] 堀 耕平

[期 間] 令和5年2月3日～

[展示資料] 東京オリンピック2020聖火リレートーチ

(7) 南相馬市中央図書館

① 企画展「五月中の申 御野馬追」出張展示

[担当学芸員] 二上文彦

[期 間] 令和6年5月24～8月19日

[展示資料] 奥州相馬妙見祭 其二 野馬追図

② 企画展「縄文 みなみそうま」出張展示

[担当学芸員] 森 幸彦

[期 間] 令和6年8月28～11月26日

[展示資料] 原町区石倉遺跡出土の縄文土器片、土偶、クマ形石製品、石器類、玉類等120点



図書館での出張展示「縄文 みなみそうま」

## 3. 資料収集管理事業

## (1) 収蔵資料数 (令和7年3月31日現在)

区分	実物	標本	模型等	寄託		合計	令和6年度増減分 内訳				
				実物	標本・模型等		寄贈	購入	寄託	返却	
人文科学資料	美術	767			3		770				
	考古	7,707			2,477		10,184				
	民俗	7,350		11	259		7,620	79	3	11	1
	歴史	11,822		53	5,245	7	17,127	198		9	2
	図書	11,961					11,961	175	1		
	写真	1,330					1,330				
	その他	548					548				
	計	41,485		64	7,984	7	49,540	452	4	20	3
自然科学資料	動物	651	685	13	43		1,392	8			
	植物	70	54	2			126				
	地学	11			9	7	27			7	
	理化学										
	天文										
	図書	426					426	7	1		
	写真	116					116				
	その他	63		1			64				
	計	1,337	739	16	52	7	2,151	15	1	7	0
合計	42,822	739	80	8,036	14	51,691	467	5	27	3	

## (2) 新規収蔵資料 (図書を除く)

分野	分類	品名	点数
民俗	郷土料理レプリカ	切玉子	1
民俗	郷土料理レプリカ	煎り酒	1
民俗	郷土料理レプリカ	ほうれん草のじゅうねん和え	1
合計			3

## (3) 資料の貸出し

## ① 博物館資料

資料名	点数	貸出先	貸出期間	展覧会・イベント名
竜脚類恐竜の歯化石(広野町笠松層産 個人寄託資料)	1	福島県立博物館	令和6年 5月9日～ 3月31日	同館調査研究事業「福島県内の恐竜化石産地」調査および同館ポイント展示「恐竜を発掘するには」(7/20～10/23)で展示
大六天遺跡出土ヘラ書「少毅殿」土器(市指定文化財)	1	福島県文化財センター白河館	6月5日～ 10月10日	同館令和6年度企画展「U-15の考古学『ふくしまの平安時代のはじまり』」(6/15～9/29)の展示資料
クルミかご(4号編組製品) 鷺内遺跡	1	八戸市埋蔵文化財センター 是川縄文館	7月2日 ～9月12日	同館特別展「縄文の編み/組みの探究」(7/13～9/8)の展示資料として

資料名	点数	貸出先	貸出期間	展覧会・イベント名
鉄錆地十四間二方白星兜、鉄錆地椎形兜、鉄錆地陰雪輪紋象嵌鏡、下り駒の指旗（現代製）、三社神旗（現代製）	8	U.S. Equine, Inc	令和 6年 8月22日～	ケンタッキー・ホースパークで開催する日本馬事文化展示会「馬の心」における展示資料として
豊田君仙子（額装1点、色紙2点）	3	埴谷・島雄記念文学資料館	11月29日～ 3月25日	
合 計	14			

## ② 写真資料

貸出資料	点数	貸出先	貸出日	貸出事由
カモシカ	1	福島民友新聞社	令和 6年 4月14日	4/14、原町区本陣前3丁目に没したカモシカについて記事にするため。
キムリエラ・デンシフォリア	1	福島民友新聞社	4月17日	キムリエラ・デンシフォリアが市の天然記念物に指定されることについて、記事にするため。
キムリエラ・デンシフォリア	1	(有)大悠社	5月29日	株式会社新学社が刊行する冊子『PIKARI!! 10月号』に掲載するため。
相馬野馬追図屏風（右隻）	1	(株)吉川弘文館	6月18日	(株)吉川弘文館出版『相馬一族の中世』（仮題）[岡田清一著 9月刊行予定 電子出版も含む]におけるカバーとして使用。
明治41年創業の永石機業工場（小高）・蚕と桑（平成元年頃）	2	朝日新聞社 南相馬支局	6月28日	新聞記事に掲載するため。
南相馬市の川辺の生き物の写真（植物、魚、哺乳類、野鳥）	35	生涯学習課	7月5日	第17回南相馬市総合美術展覧会（令和6年11月16～19日：小川町体育館）「南相馬市の川辺の生き物たち」をテーマに洋画ワークショップを行う際の題材として。
『町場と里の民俗 ～小高町を中心に～』掲載の銀砂工場トロッコ道の図	1	個人	9月6日	浜通り地区、特に小高区観光ピーアールの一助とするため、馬事公苑等の掲示板に当該図および紹介文を掲示する。
富田高慶坐像	1	相馬市史編さん室	9月25日	『相馬市史』第2巻 通史編Ⅱ近世に掲載のため
長瀬遺跡整形炉復元模型	1	(株)神戸新聞総合印刷	9月25日	兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室編『ひょうご鉄学いまむかし』に掲載のため
落成時の市庁舎	1	建設新聞社	10月31日	東北6県の建設専門紙『建設新聞』に掲載するため
富田高慶坐像	1	致知出版社	令和 7年 3月11日	『致知』2025年5月号「評伝 二宮尊徳～世界に誇るべき偉人の生涯～」に使用するため。
合 計	46			

## 4. 調査研究事業

## (1) 『研究紀要』の刊行

学芸員等の調査研究成果を掲載する学術雑誌の刊行。令和6年度末（令和7年[2025]3月31日付）に200部印刷製本。また、令和7年4月に電子版として当館公式ウェブサイトで公開した。

## ■ 『研究紀要 第15号』本文64ページ

- ・「太平洋戦争中の野馬追 ー相馬野馬追講武会関連資料を中心に」
- ・「廃藩置県にいたる中村藩の動向」

二上文彦  
森 晃洋

- ・『「おうちで博物館」ーコロナ状況下に学ぶミュージアム体験のこれから』 川崎 悠
- ・「野馬追原の植生（1）ー南相馬市原町区上町に残存した湿性草地の植生調査」 仲川邦広

## （2）調査研究テーマ（分野別）と内容

### ① 野馬追と観光（新規）[担当学芸員：二上文彦]

江戸時代には中村藩主相馬家の年中行事として開催され、明治時代以降には神社の神事として継承されてきた野馬追は、伝統行事でありながらも“見もの”として人気があり、江戸時代から多くの見物人たちが当地方を訪れた。それは明治以降も続き、野馬追は相馬名物としてブランド化した。この「観光資源」としての側面は、現代野馬追を継続する推進力のひとつとなっていることも事実である。

江戸時代から続く野馬追の観光資源としての側面を、資料（絵図、古文書、古写真等）によって調査し、野馬追がブランド化してきた歴史を明らかにすることを目的とした。本調査の一環で入手した幕末の「諸国御祭礼番付」により、当時の野馬追の知名度や、江戸時代後期の和算家・山口和の『道中日記』に見られる野馬追の描写を調査した。令和7年度企画展「野馬追トラベラーズ」にて発表予定。

### ② 磐城無線電信局原町送信所の調査（継続）[担当学芸員：二上文彦]

高さ約200メートルのいわゆる原町無線塔は、大正時代の完成から数えて約60年、当地の市街にそびえていたことから、市民の心象風景となり、関東大震災での活躍と併せて地元で語り継がれている。しかし、無線局としての公・民による業務分担への変化に加え施設が広域だったことなどもあり、その実像や全体像は見えづかった。

無線塔の再評価への足掛かりとして、磐城無線電信局原町送信所（原町無線塔）についての一次資料（建設、運用、解体等の歴史）および現存する遺物・痕跡（副柱アンカー、電弧発振器、発電機等）の確認を行った。

### ③ 南相馬市の絶滅に瀕する野生生物生息地調査（継続）[担当学芸員：仲川邦広]

現地調査および地元有識者、外部団体（野鳥の会、虫の会、植物の会）、県自然保護課などへの情報照会により、市内の絶滅危惧種のリスト、分布、生息環境を調査した。

調査成果は、将来的に当館企画展や庁内連携による希少生物保全区域の策定に活用する予定である。

### ④ 南相馬市原町区に残存した湿性草地の植生（継続）[担当学芸員：仲川邦広]

野馬追を構成するひとつの要素として欠かせないのが、野馬たちが生活を送り野馬追の舞台ともなった野馬原である。江戸時代から近代にかけて存在した野馬原の大部分を構成する草地環境は現在ほぼ宅地等に造成され、その植生等について詳細を知ることは難しい。一方で、南相馬市原町区上町地区に残された湧水と水路を中心とした湿性草地は、前述の野馬原の趣を色濃く残す貴重な景観である。過去には大学機関による植生調査も行われたものの、標本資料は作成されておらず、標本にもとづいた研究は行われてこなかった。

本研究では標本収集をとまなう現地調査および標本調査を実施し、伝統行事である野馬追が行われてきた野馬原の景観解明の一助とすることを目的とした。令和6年度『研究紀要 第15号』にて公開した。

### ⑤ 相双地方の焼き物調査（継続）[担当学芸員：堀 耕平]

近世に開窯した2つの焼き物である相馬駒焼と大堀相馬焼について、資料の寄贈、寄託があった。両窯の整理、調査により、その製品や技術等を紹介する展示につなげる。

相馬駒焼は奥州中村藩のお留め窯であったが、平成23年（2011）、後継者がなく窯の火が途絶えた。今回、窯元からの依頼を受け製品、作品、文書資料などの寄贈・寄託を得たことから、今

後、整理と目録作成を行う。

大堀相馬焼は東北地方から関東地方の各窯の開窯や技術向上に影響を与えたとされる民窯であるが、東京電力福島第一原子力発電所事故のため、窯跡の多くが立ち入りを制限されている。今回、事故以前に窯跡から収集された陶片や窯道具などが寄贈されたことから、今後、各窯跡や製品内容の調査研究に向けて整理を行う。

⑥ 歴史資料の整理と調査（継続）[担当学芸員：森 晃洋]

資料の所蔵者の世代交代が進んでいることもあり、多くの資料が博物館に寄贈・寄託されているが、未整理のままとなっているものが多い。それらの資料の整理と調査を行った。

また、世代交代が進んだことにより、戦争体験者からの聞き取り調査はむずかしくなった現状がある。ただ、寄贈・寄託される資料の多くは戦争関係であり、直接戦争を体験していなくとも戦争当時のことを伝え聞いていることがあるため、所蔵資料に関する問い合わせ等があった際に3人から話をうかがった。

⑦ 終戦80年に向けて戦争関係の調査（継続）[担当学芸員：森 晃洋]

令和7年（2025）は、終戦から80年の節目の年にあたる。これを機に戦争に関する展示を令和7年度に実施するための調査を行う。

テーマを設定するにあたり、戊辰戦争以降の近代の戦争と広く設定する。そして、刊行されている『原町市史』等の自治体史を活用して、資料の選定を進めていく。

⑧ 相双地域の郷土食調査（継続）[担当学芸員：川崎 悠]

相双地域に伝わる郷土食は、当地の歴史的・環境的背景のなかで育まれてきた文化である。しかし、食生活の多様化や住民の高齢化、東日本大震災に伴う集落の流出や解体、住民の避難等による離散、材料となる食材の放射能汚染等により、地域の食文化の継承が危惧される状況にある。

郷土食の調査・記録・情報収集を継続的に行い、展示等により地域の人びとに関心を持ってもらい継承へつなげるため、郷土食のレプリカを作製し、季節にあわせたレプリカ展示をエントランスホールで行った。

(3) 各学芸員の研究活動

① 発表

- ・佐藤義典「年取り魚習俗の研究」（令和6年5月12日 2023年度民俗学関係修士論文発表会 日本民俗学会）

② 投稿

- ・森 晃洋「新刊紹介 - 岡田清一著『相馬一族の中世』」（『福島史学研究』103号 令和6年）

③ 他団体による委嘱等

堀 耕平 : 福島県博物館連絡協議会理事、相双地区博物館連絡協議会会長

二上文彦 : 相馬野馬追保存専門委員会委員

森 晃洋 : 福島県史学会相双地区幹事

仲川邦広 : 福島県植物研究会会計、福島県野生動植物保護アドバイザー、環境省希少野生動植物種保存推進員

茂木千恵美 : 浜通りのお浜下り調査員

## 5. 教育普及事業

## (1) 講座・体験学習

学芸員および外部講師を招いた講座・体験学習等の実施。

## ① 講座 実施回数：17回 参加人数：618人

開催日	内容（タイトル）	講師名 [担当学芸員]	参加人数
令和6年 4月14日	小高の自然調査事業成果報告会	竹谷陽二郎氏、根本修行氏、黒沢高秀氏、本多隆氏、大槻晃太氏、五十嵐悟氏、斎藤修司氏、塘忠顕氏、井上尚武氏、末永福男氏、三田村敏正氏、吉井重幸氏 [仲川邦広]	76
5月11日	史料をよむ「室町～戦国時代の相馬一族と南奥世界①」	岡田清一氏（東北福祉大学名誉教授） [森 晃洋]	46
5月12日	蓄音機コンサート	佐藤晴美氏・二本松文雄氏（蓄音機愛好家） [佐藤義典]	7
6月23日	企画展「五月中の申 御野馬追」解説会	二上文彦学芸員	25
7月13日	史料をよむ「室町～戦国時代の相馬一族と南奥世界②」	岡田清一氏（東北福祉大学名誉教授） [森 晃洋]	30
7月21日	野馬追の精神と藩政への影響について	二上裕嗣氏（元福島県立医科大学非常勤講師） [二上文彦]	33
7月28日	ふくしまの森林文化 ー上川崎和紙ー	遠藤哲也氏（二本松市和紙伝承館：福島県森林計画課派遣） [佐藤義典]	9
9月14日	史料をよむ「室町～戦国時代の相馬一族と南奥世界③」	岡田清一氏（東北福祉大学名誉教授） [森 晃洋]	30
9月22日	企画展「縄文 みなみそうま」展示解説会①	川田 強文化財課長	24
10月19日	企画展「縄文 みなみそうま」展示解説会②	森 幸彦学芸員	15
11月3日	蓄音機コンサート	佐藤晴美氏・二本松文雄氏（蓄音機愛好家） [佐藤義典]	22
11月16日	史料をよむ「室町～戦国時代の相馬一族と南奥世界④」	岡田清一氏（東北福祉大学名誉教授） [森 晃洋]	35
11月24日	企画展記念講演「縄文時代のかごづくりー鹿島区鷲内遺跡の調査成果からー」	佐々木由香氏（金沢大学 特任准教授） [森 幸彦]	49
令和7年 1月18日	南相馬のことば ー方言学の視点からー	小林初夫氏（奥羽大学図書館長） [佐藤義典]	30
2月16日	講演「彫刻の見かた・楽しみかた」	吉野 毅氏（日本芸術院会員） [堀 耕平館長]	120
2月22日	史料をよむ「室町～戦国時代の相馬一族と南奥世界⑤」	岡田清一氏（東北福祉大学名誉教授） [森 晃洋]	33
3月8日	史料をよむ「室町～戦国時代の相馬一族と南奥世界⑥」	岡田清一氏（東北福祉大学名誉教授） [森 晃洋]	34
合 計			618

## ② 体験学習 実施回数：23回 参加人数：362人

開催日	内容（タイトル）	講師名 [担当学芸員]	参加人数
令和6年 4月28日	小高の自然観察会	黒沢高秀氏、斎藤修司氏、末永福男氏、三田村敏正氏、日本野鳥の会南相馬支部会員、弦間一郎氏 [仲川邦広]	27
5月5日	香りの宝石せっけんを作ろう	小林香代子氏（ライブラ香りの学校・福島校） [仲川邦広]	21

開催日	内容（タイトル）	講師名 [担当学芸員]	参加人数
令和6年 5月20日	化石を楽しもう ―化石さがし	平 宗雄氏（博物館収集展示委員）、八巻安夫氏（相馬中村層群研究会長） [二上文彦・仲川邦広]	22
6月1日	化石を楽しもう ―化石標本作り		22
7月13日	夏のキノコを観察しよう！	本多 隆氏（福島きのこの会）ほか [仲川邦広]	12
7月20日	東ヶ丘公園の植物を観察しよう	仲川邦広学芸員	5
8月3日	東ヶ丘公園で昆虫観察&標本を作ろう	平澤 桂氏・三田村敏正氏・吉井重幸氏 （福島虫の会）[仲川邦広]	22
8月18日	本物にさわって勾玉を作ろう	堀 耕平館長	19
9月15日	化石のレプリカを作ろう！	八巻安夫氏・荒 好氏（相馬中村層群研究会） [二上文彦・仲川邦広]	22
9月23日	さわって、みて、感じる縄文世界①	川田 強文化財課長、森 幸彦学芸員	15
9月28日	南相馬のことば ―入門編―	小林初夫氏（奥羽大学図書館長）ほか [佐藤義典]	9
9月29日	さわって、みて、感じる縄文世界②	杉浦弘佳文化財主事	30
10月6日	南相馬のことば ―入門編―	小林初夫氏（奥羽大学図書館長）ほか [佐藤義典]	10
10月14日	さわって、みて、感じる縄文世界③	文化遺産サポーター	12
10月20日	“アンモナイト・モンスター”をつくろう！	小原風子氏（アーティスト）[仲川邦広]	11
10月27日	さわって、みて、感じる縄文世界④	川田 強文化財課長、文化遺産サポーター	7
11月4日	さわって、みて、感じる縄文世界⑤	文化遺産サポーター	7
11月9日	化石を楽しもう ―化石さがし	平宗雄氏（博物館収集展示委員）、八巻安夫氏（相馬中村層群研究会長） [二上文彦・仲川邦広]	14
11月10日	化石を楽しもう ―化石標本作り	平宗雄氏（博物館収集展示委員） [二上文彦・仲川邦広]	14
11月17日	さわって、みて、感じる縄文世界⑥	森幸彦学芸員	27
12月22日	正月飾り作り	高田求幸氏（南相馬市博物館資料調査協力員） [佐藤義典]	10
令和7年 3月9日	ワークショップ「みんなで描く野馬追行列」	須田美紀子氏（公益社団法人二科会会員） [堀 耕平館長]	8
3月23日	本物にさわって勾玉を作ろう	堀 耕平館長	16
合 計			362



講座 史料をよむ「室町～戦国時代の相馬一族と南奥世界③」（令和6年9月14日）



体験学習「南相馬のことば―入門編―」で参加者が作成した方言かるた

IV 令和6年度事業実施概要

③ その他 実施回数：2回 参加人数：83人

開催日	内容（タイトル）	講師名【場 所】	参加人数
令和6年 9月21日	浦尻貝塚縄文の丘公園オープン記念コラボイベント① 「こんだあきこさんと歩く浦尻貝塚縄文ツアー」	譽田亜紀子氏 [浦尻貝塚縄文の丘公園]	39
10月26日	浦尻貝塚縄文の丘公園オープン記念コラボイベント② 「こんなに楽しい、浦尻貝塚！ ～土偶女子とアーティストが語るその魅力～」	譽田亜紀子氏、安芸早穂子氏 [市民情報交流センター]	44
合 計			83

(2) 各機関との連携

① 学校等との連携

ア. 学校等の見学 実施回数：21回 参加人数：生徒等793人 引率者61人（合計854人）

来館日	学校名	学年	参加人数		内 容【担当学芸員】
			生徒等	引率者	
令和6年 6月20日	鹿島小学校	6	49	2	社会科「日本の歴史」の学習内容を深める（野馬追・歴史）[二上文彦・森 晃洋]
6月26日	大甕小学校	6	10	1	報徳仕法および野馬追について [森 晃洋・二上文彦]
7月3日	石神第二小学校	4	57	3	社会科「市の伝統（野馬追）」、総合的な学習の時間「報徳仕法」[森 晃洋・佐藤義典]
9月4日	石神中学校	1	111	8	総合的な学習の時間「報徳仕法、野馬追等」 [二上文彦・仲川邦広・佐藤義典]
9月7日	伊達市立睦合小学校	5	9	1	総合的な学習の時間「相馬地方の伝統文化と桑折町の比較」
9月18日	鹿島中学校	1	73	5	総合的な学習の時間「ふるさとの歴史を学ぶ」 [森 晃洋]
9月19日	原町第二中学校	1	7	1	総合的な探究の時間「南相馬の歴史」「南相馬の施設」[森 晃洋]
10月31日	上真野小学校	3	16	2	野馬追 [二上文彦]
11月20日	原町第二小学校	3	30	2	野馬追 [二上文彦]
令和7年 1月23日	原町第一小学校	6	49	2	社会科「日本の歴史 幕末から戦時中まで」 [森 晃洋]
2月4日	鹿島小学校	3	58	3	社会科「昔の道具とくらし」[佐藤義典]
2月5日	石神第一小学校	6	8	1	社会科「日本の歴史 地域の歴史」[森 晃洋]
2月12・ 13日	石神第二小学校	6	47	4	社会科「日本の歴史 歴史学習」[森 晃洋]
2月14日	小高小学校	4	17	2	報徳仕法 [森 晃洋]
2月18日	浪江町立なみえ 創成中学校	3・4	16	3	社会科「昔の道具とくらし」「報徳仕法」 [森 晃洋・佐藤義典]
2月19日	高平小学校	3	18	2	社会科「昔の道具とくらし」[佐藤義典]
2月20日	小高小学校	3	11	2	社会科「昔の道具とくらし」[佐藤義典]
2月25日	原町第三小学校	3	80	7	社会科「わたしたちの市のあゆみー昔の道具、町の移り変わり」[森 晃洋・佐藤義典]
2月26日	石神第一小学校	3	14	2	社会科「市の様子と人々のくらしのうつりかわり」昭和～令和 [森 晃洋]
2月27日	石神第二小学校	3	58	3	社会科「昔の道具とくらし」[佐藤義典]

来館日	学校名	学年	参加人数		内容 [担当学芸員]
			生徒等	引率者	
令和7年 3月13日	原町第一小学校	3	55	5	社会科「昔の道具とくらし」「街の移り変わり」 「野馬追」[佐藤義典・森 晃洋]
合 計			793	61	

イ. 出前講座(学校関係) 実施回数:17回 参加人数:児童・生徒602人 教師40人(合計642人)

実施日	学校名	学年	参加人数		内容 [担当学芸員]
			生徒等	教師	
令和6年 5月8日	原町第二小学校	5・6	66	2	野馬追のいまむかし [二上文彦]
6月11日	石神第二小学校	4	57	4	報徳仕法史跡巡り [森 晃洋・佐藤義典]
6月25日	小高小学校	3	11	3	総合的な学習の時間「南鳩原・小高川支流の生きもの観察」[仲川邦広]
6月28日	適応指導教室 やすらぎ広場	—	3	4	勾玉作り [堀 耕平館長]
7月12日	大熊町立学び舎 ゆめの森	3・ 5・6	4	2	総合的な学習の時間「化石採集」 [二上文彦・仲川邦広]
7月18日	大熊町立学び舎 ゆめの森	5・6	2	1	総合的な学習の時間「化石標本作り」 [二上文彦・仲川邦広]
8月30日	原町第二小学校	3	31	2	野馬追のいまむかし [二上文彦・佐藤義典]
9月4日	福島県立相馬支 援学校	2	5	3	ふるさとの歴史を学ぶ [森 晃洋]
9月12日	原町高等学校	1	134		総合的な探究の時間「ワークショップ『南相馬発 メッセー南相馬の魅力を知ろう』」 [二上文彦・仲川邦広]
9月18日	鹿島中学校	1	73	5	ふるさとの歴史を学ぶ(鹿島区内史跡めぐり) [森 晃洋]
10月23日	上真野小学校	6	8	2	理科「土地の成り立ちと変化」露頭観察と化石採 集 [二上文彦]
10月25日	鹿島小学校	4	57	2	社会科「残したいもの、伝えたいもの」副読本で わかる二宮尊徳・富田高慶の教え [森 晃洋]
11月1日	鹿島小学校	4	57	4	報徳仕法 バス(南右田神社、萱浜用水路、浦尻 貝塚) [森 晃洋]
11月6日	原町第二小学校	4	33	2	報徳仕法とは(講座+萱浜用水路) [森 晃洋]
12月17日	上真野小学校	4	11	1	副読本でわかる二宮尊徳・富田高慶の教え [森 晃洋]
令和7年 1月16日	原町第二小学校	6	34	1	震災と原発事故後の南相馬の自然 [仲川邦広]
2月13日	高平小学校	6	16	2	勾玉作り [堀 耕平館長]
合 計			602	40	

ウ. 中学生職場体験 実施回数:1回 参加人数:2人 [担当学芸員 全員]

実施期間	学校名	学年	人数
令和6年 9月25・26日	石神中学校	2	2

IV 令和6年度事業実施概要

エ. 博物館実習 実施回数：1回 参加人数：1人 [担当学芸員 全員]

実施期間	大学名	学部学科	学年	人数
令和6年 9月18～23日	福島大学	共生システム理工学研究科 生物多様性保全研究室	修士1	1

オ. 資料貸出セット：3回 [担当学芸員 仲川邦広]

貸出期間	学校名	学年	資料セット	内容
令和6年 11月2日～9日	原町第三小学校	6	野馬追（神旗等）	総合的な学習の時間（野馬追の劇で使用）
令和7年 2月21～28日	原町第二小学校	3	昔の道具、昔の原町	社会科「市のうつりかわり」
3月5～12日	上真野小学校	3	昔の道具、昔の原町	社会科「市のうつりかわり」

② 生涯学習関係機関等との連携

ア. 講師派遣（出前講座等） 実施回数：33回 参加人数：1,259人

実施日	主催	参加人数	内容 [担当学芸員]
令和6年 4月5日	南相馬市役所総務課	36	新採用職員研修「知っておきたい南相馬の歴史」、企画展案内 [二上文彦・仲川邦広]
4月23日	南相馬市教育委員会学校教育課	23	南相馬市小中学校初任者研修・新規採用学校 栄養職員研修「知っておきたい南相馬の歴史」、 常設展示案内 [二上文彦・森 晃洋]
6月13日	福島県中小企業家同友会 相双支部	15	6月例会「相馬野馬追の歴史に学ぶ」 [二上文彦]
6月22日	NPO法人はらまちクラブ	43	南相馬ふるさと検定「知っておきたい南相馬 の歴史」 [二上文彦]
6月29日	原町生涯学習センター	34	ホテル観察会 [仲川邦広]
7月7日	フロップル（もともとまりまちづくり ラボ）	75	かえっこ@ゆめはっと（クールアース・デー）： 南相馬市の木の葉のスタンプ [仲川邦広]
7月17日	原町西（原町第三小学校）地域学校 協働本部	49	原町西（原三小）地域学校協働活動「総合的 な学習の時間『野馬追のいまむかし』」 [二上文彦]
7月23日	相馬地方小学校教育研究会社会科部 会	20	相馬地方小学校教育研究会社会科部会 第一 次研究協議会「野馬追の里の成り立ち」 [二上文彦]
7月30日	南相馬市教育研究会地域学習研究部	37	「報徳仕法・野馬追」 [二上文彦・森 晃洋]
8月4日	下太田農地・水環境保全会	21	地域水生生物等の観察会（牛川） [仲川邦広]
8月10日	小高やどりぎ。	30	川の生きもの観察（北鳩原川） [仲川邦広]
8月20日	けやき児童クラブ	21	野馬追のいまむかし [二上文彦]
9月7日	（一社）南相馬観光協会	14	南相馬市サポーター「支える人々を通して相 馬野馬追に内側から触れる」ツアー [二上文彦]
9月11日	とみやグレートアカデミー	12	相馬流山・法螺貝観賞、講座「奥州相馬氏に ついて」 [森 晃洋]
9月25日	ひまわりデイサービス	25	昔の道具 [佐藤義典]
9月26日		25	
9月27日	福島県市町村社会教育指導員連絡協 議会	90	令和6年度第2回福島県市町村社会教育指導 員研修会（相双大会）「相馬野馬追の歴史」 [二上文彦]

実施日	主催	参加人数	内容 [担当学芸員]
令和6年 10月1日	原町リトリート	7	東ヶ丘公園内の生きもの観察と火起こし体験 [仲川邦広・森 晃洋・佐藤義典]
10月5日	相馬市子ども科学フェスティバル実行委員会	224	化石のレプリカを作ろう！ [二上文彦・仲川邦広]
10月6日	雲雀ヶ原三行政区	140	ひばりさんのつどい「なぜ原町は野馬追の里になった…？」[二上文彦]
10月10日	太田生涯学習センター	15	移動研修「復興を支えた報徳仕法と移民政策の痕跡を辿る」[森 晃洋]
10月24日	移動研修「復興を支えた報徳仕法と移民政策の痕跡を辿る」	18	ひばりすこやか学級「移動教室 南相馬の樹木（天然記念物）巡り」[仲川邦広]
11月8日	小高区二区老人会	11	講座「浄土真宗移民について」[森 晃洋]
10月8日	小高放課後子ども教室「自然観察体験」	59	浦尻貝塚縄文の丘公園での自然観察体験における植物等の説明および指導 [仲川邦広]
11月15日	いきいき会（鹿島区塩崎）	12	講座「ふるさとの歴史」[森 晃洋]
11月25日	石神生涯学習センター	12	石神令和6年度報徳講座（第4回）「明治初期の報徳仕法の継続活動について（西郷隆盛と渋沢栄一）」[森 晃洋]
12月18日	原町生涯学習センター	84	成人大学「江戸時代の諸史料にみる相馬家の由緒」[森 晃洋]
12月25日	南相馬市教育委員会学校教育課	12	南相馬市小中学校初任者研修「知っておきたい南相馬の歴史」、常設展示案内 [二上文彦]
令和7年 1月10日	原町西（石神第一小学校）地域学校協働活動本部	17	放課後子ども教室 化石採集 [仲川邦広]
1月25日	相馬野馬追陣螺術保存会	22	野馬追の母衣、女性騎馬武者の歴史 [二上文彦]
2月17日	文化学園大学 造形学部 染織研究室	24	野馬追のいまむかし [二上文彦]
2月26日	深野長寿会	20	昔の道具 [佐藤義典]
3月6日	ひがし生涯学習センター	12	明治初期の報徳仕法の継続活動について（西郷隆盛と渋沢栄一）」[森 晃洋]
合 計		1,259	

イ. 発表・シンポジウム等 実施回数：1回 参加人数：37人

開催日	主催	参加人数	内容 [担当学芸員]
令和6年 5月12日	日本民俗学会	37	2023年度民俗学関係修士論文発表会「年取り魚習俗の研究」[佐藤義典]
合 計		37	

### (3) 幼稚園・保育園等出前講座事業

#### キッズミュージアム

館内に幼児・児童が参加する体験プログラムを複数設置した、子ども向けワークショップ。

実施回数：1回 参加人数：幼児・児童245人 保護者201人（合計：446人）[担当学芸員：全員]

実施日	参加人数		体験プログラム
	幼児・児童	保護者	
令和6年 12月15日	245	201	標本観察、野馬追絵図スタンプ、ぬりえ、まゆだまあそび、甲冑着付け体験、貝殻のマグネットづくり（コミュニティ福島）
合計	446		

## 6. その他の事業

## (1) 博物館理解・活用促進のための無料開館

実施回数：7回 入館者数：693人

日付(曜日)		入館者数
こどもの日	令和6年5月5日(日/祝)	215
国際博物館の日	5月15日(水)	67
福島県民の日	8月17日(土)	34
	8月18日(日)	79
敬老の日	9月16日(月/祝)	61
文化の日・東北文化の日	11月3日(日/祝)	153
成人の日	令和7年1月13日(火/祝)	64
合計		693

## (2) 博物館・その他機関との連携

## ① 福島県博物館連絡協議会(令和7年度 理事)

総会 令和6年8月30日 会場/福島県立博物館

理事会 8月20日 オンライン

令和7年3月14日 オンライン

研修会 3月4日 会場/郡山市立美術館

## ② 相双地区博物館連絡協議会の再開

同協議会は、相双地区の博物館およびこれに準ずる施設による相互の連携・協力を図る組織として設立され(平成13年度設立)、平成23年の東日本大震災震災以降活動が休止していたが、令和6年度、活動を再開した。

会長：当館長

事務局：当館

## 加入博物館およびこれに準ずる施設(教育委員会)

地区名	博物館・準ずる施設(教育委員会)	備考
相馬	相馬市歴史資料収蔵館	旧：相馬市歴史民俗資料館
	南相馬市博物館	
双葉	双葉町教育委員会	旧：双葉町歴史民俗資料館
	とみおかアーカイブ・ミュージアム	旧：富岡町歴史民俗資料館
	檜葉町歴史資料館(大地とまちのタイムライン)	

協議会再開に向けての懇談会 10月21日

総会 2月13日

## ③ その他機関との連携

実施回数：4回 参加人数：267人 [担当学芸員：全員]

開催日	主催	参加人数	内容[担当学芸員]
令和6年 6月20日	南相馬市役所商工労政課 ほか	5	中心市街地活性化に向けた意見交換会(まちの移り変わり、企画展「五月中の申 御野馬追」)[森 晃洋・二上文彦]
6月23日	NPO法人はらまちクラブ	43	南相馬ふるさと検定[二上文彦]
11月2日	福島県危機管理部	164	そなえる・ふくしま2024[森 晃洋・二上文彦]

開催日	主催	参加人数	内容 [担当学芸員]
令和7年 3月2日	(一社)南相馬観光協会	55	みなみそうマルシェへの土器を使ったワークショップ 出展〔仲川邦広〕
合計		267	

## (3) レファレンス対応

240件 \* 7. 情報発信 (4) ①記載分も含む

## 7. 情報発信

## (1) 広報

## ①「南相馬ミュージアム通信」

年3回、展示会や講座・体験学習などの情報を発信した。

Vol. 53 令和6年4月1日発行

Vol. 54 10月1日発行

Vol. 55 令和7年2月1日発行

10,500部、隣組回覧、市外避難世帯への発送



ミュージアム通信Vol. 53~55

## ② 展示会ポスター・リーフレット

配布先：福島県内外博物館等、福島県内教育委員会、相馬地方の各学校、公共施設、市内スーパー、市内外旅館・ホテル、首都圏旅行者 など

種類	仕様・印刷数等
ポスター	企画展「五月中の申 御野馬追」 B 2 280枚 企画展「縄文みなみそうま」 B 2 300枚 企画展「寄贈コレクションで見る日本近現代の彫刻」 B 2 510枚
リーフレット	企画展「五月中の申 御野馬追」 A 4 2,100枚 企画展「縄文みなみそうま」 A 4 2,000枚 企画展「寄贈コレクションで見る日本近現代の彫刻」 A 4 4,050枚

## (2) 南相馬市博物館ウェブサイト・SNS (ソーシャル・ネットワーキング・サービス) による発信

南相馬市公式ウェブサイト内の博物館サイトにて、展示や体験学習・講座などの催し物、来館案内などの各種情報、出版物の案内、学芸員による連載コラム(「ちょこっと☆みゅーじあむ」:2か月に1度)などを発信している。

また、北海道博物館が運営する「おうちミュージアム」に参加し、自宅等で本市の歴史、文化、自然を楽しく知って学べる取り組みとして「おうちで博物館」を配信している。

#### IV 令和6年度事業実施概要

さらに、博物館公式SNS（令和2年5月運用開始。Facebook、X（旧Twitter）、YouTube）にて、相馬地方の歴史や自然、文化について紹介するとともに、当館の最新情報や展示・イベントのようすを発信し、市内外の感心層への発信の場として活用している。

当館サイト URL <https://www.city.minamisoma.lg.jp/portal/culture/museum/index.html>

Facebook URL <https://www.facebook.com/minamisomashihaku>

X [旧 Twitter] URL <https://twitter.com/MinamisomaMuse>

YouTube URL <https://www.youtube.com/channel/UC3-Z-OfKZnOVMwZorWRrJRg>

#### ① コラム「ちょこっと☆みゅーじあむ」

掲載年月日	テーマ	担当学芸員
令和6年4月1日	しらべてわかった！ おだかの自然 — “自然が豊か” という言葉を追って—	仲川邦広
5月1日	野馬追が行われた「五月中の申」の日っていつ…？	二上文彦
6月1日	南相馬市の昆虫は「ほたる」です	仲川邦広
8月1日	南相馬市の水草—用水路でみられる花ばな	仲川邦広
9月1日	土器につけられた顔	森 幸彦
10月1日	南相馬市でみつけやすいドングリ	仲川邦広
11月7日	南相馬市指定有形文化財「上栢窪遺跡の縄文土器」	森 幸彦
11月15日	土偶 —女神の盛衰	森 幸彦
12月1日	鮭川の道標	森 晃洋
令和6年2月1日	金次郎像はパブリック・アートの先駆け	堀 耕平

#### ② おうちで博物館 ※以下、カッコ内は令和2年5月1日からの累積値

- ・制作コンテンツ数：0本（16本）

#### ③ Facebook

- ・新規投稿数：86件（180件）
- ・新規フォロワー数：49人（1,130人）

#### ④ X [旧 Twitter]

- ・新規投稿数：115件（594件）
- ・新規フォロワー数：126人（1,209人）

#### ⑤ YouTube

- ・新規配信動画数：3本（18本）
- ・チャンネル視聴回数：13,707回（75,111回）
- ・チャンネル新規登録者数：47人（532人）

#### (3) 『広報みなみそうま』コラム「おしえて博物館」

南相馬市広報紙『広報みなみそうま』における学芸員連載コラム。毎月掲載。

号数	テーマ	担当学芸員
令和6年4月号	しらべてわかった！ おだかの自然 — “自然が豊か” という言葉を追って—	仲川邦広
5月号	野馬追が行われた「五月中の申」の日っていつ…？	二上文彦
6月号	南相馬市の昆虫は「ほたる」です	仲川邦広
7月号	南相馬市の水草—用水路でみられる花ばな	仲川邦広
8月号	土器につけられた顔	森 幸彦

号数	テーマ	担当学芸員
令和6年9月号	南相馬市でみつけやすいドングリ	仲川邦広
令和5年10月号	南相馬市指定有形文化財「上栃窪遺跡の縄文土器」	森 幸彦
11月号	土偶 ―女神の盛衰	森 幸彦
12月号	鮭川の道標	森 晃洋
令和7年1月号	金次郎像はパブリック・アートの先駆け	堀 耕平
2月号	しらべてわかった！ おだかの自然 ―“自然が豊か”という言葉を追って―	仲川邦広
3月号	野馬追が行われた「五月中の申」の日っていつ…？	二上文彦

## (4) 記事・放映

## ① 新聞・テレビ・ラジオ等のマスコミによる記事掲載・放映

掲載・放映 年月日	メディア種別	〔番組名〕 記事表題・概要	担当学芸員
令和6年 4月8日掲載	福島民報	あぶくま抄 【南相馬の化石】新たな観光資源に	二上文彦
4月14日掲載	福島民友新聞	南相馬の住宅地にカモシカ 全長2メートル、 平野部目撃例珍しく	仲川邦広
4月22日放送	福島テレビ	[レポートプラス] 世界的に第一級!? 新 種の化石を発見! ジュラ紀後期の植物『キ ムリエラ・デンシフォリア』	二上文彦
4月23日掲載	福島民報	キムリエラ・デンシフォリア 新種の植物化 石 市文化財に指定	二上文彦
4月24日掲載	福島民友新聞	新種の植物化石... 市文化財指定、南相馬教 委『世界的第一級の標本』	二上文彦
4月26日放映	NHK福島	[はまなかあいつTODAY] 南相馬市の博物館 新種の植物の化石を展示 市の天然記念物に	二上文彦
5月21日掲載	福島民報	企画展「五月中の申御野馬追」21日、福島県 南相馬市で開幕	二上文彦
5月21日掲載	福島民友新聞	野馬追歴史振り返る、南相馬市博物館で企画 展 旧暦「申」テーマ	二上文彦
5月22日放送	ラジオ福島	相馬野馬追2024-継承	二上文彦
5月22日放送	NHK福島	[はまなかあいつTODAY] 相馬野馬追高まる熱気	二上文彦
5月24日放送	KFB福島放送	[シェア!] 中継 出陣の時迫る相馬野馬追 5月は初? 変わらぬ思いも	二上文彦
5月26日掲載	福島民友新聞	古里の風景復活 地元行事再開、つないだ野馬追の伝統	二上文彦
5月26日掲載	朝日新聞(福島版)	開催時期変遷の歴史紹介 南相馬	二上文彦
5月26日放送	KFB福島放送公式You TubeときまるTV	[令和6年度 相馬野馬追ライブ配信]	二上文彦
5月27日放送	KFB福島放送	[シェア!] 福島放送が相馬野馬追をライブ配信	二上文彦
6月22日掲載	福島民友新聞	小高の養蚕復活へ 「可能性は無限」 埼玉から移住し会社設立	佐藤義典
6月27日掲載	福島民報	南相馬ふるさと検定 2級3人、3級22人合格	二上文彦

IV 令和6年度事業実施概要

掲載・放映 年月日	メディア種別	[番組名] 記事表題・概要	担当学芸員
令和6年 6月30日掲載	朝日新聞（福島版）	南相馬の魅力検定で再発見 市民ら発案 年2回開催めざす	二上文彦
7月10日掲載	毎日新聞（福島版）	『相馬野馬追』女性騎馬武者 条件緩和へ、 議論本格化 『未婚の20歳未満』担い手不足、 男女平等踏まえ	二上文彦
7月20日発行	ミナミソウママガジン	なんだか気になるみなみそうま 「相馬野馬追 日程変更の変遷」	二上文彦
7月29日掲載	福島民報	奥州中村藩の藩政解説 南相馬市博物館で野馬追講座	二上文彦
8月15日放送	テレビユー福島	[ステップ]「終戦から79年 死を前提に訓練 原町飛行場 90歳男性の証言」	森 晃洋
8月22日発行	WATCHNAVI [ウオッチ ナビ]2024 Autumn 第17 巻4号通巻95号 (株ワン・ パブリッシング)	松山猛さんと行く ライター名畑の気まま我が まま風来旅日記 第7回 時計とサムライとからむしに会う旅 南相馬・奥会津 前編	二上文彦
8月27日掲載	朝日新聞（福島版）	埼玉から南相馬移住の男性 会社設立 しっとり小高の絹せっけん 震災で途絶えた養蚕業復活めざす	佐藤義典
8月29日掲載	福島民友新聞	休眠種子が津波で掘り起こされた？ 南相馬市小高区、浸水地が希少植物の宝庫に 「再生の使者」など25種類確認	仲川邦広
8月23日掲載	福島民友新聞	縄文時代の南相馬紹介 市博物館が企画展、製塩土器など730点	川田 強
8月26日掲載	福島民報（相双・浜通り版）	縄文の生活見て触れて 南相馬で企画展開催 発掘遺物一堂に	川田 強
9月30日掲載	福島民友新聞	「みんゆうジュニア情報局」 触って知って縄文人の暮らし	川田 強
10月4日掲載	福島民報（相双・浜通り版）	化石のレプリカ 親子連れが製作 南相馬で体験学習	二上文彦、 仲川邦広
11月13日掲載	福島民友新聞	貝塚に映る縄文の暮らし 市博物館で発掘品展示	森 幸彦
11月14日掲載	福島民報（相双・浜通り版）	浦尻貝塚公園で自然観察 小高放課後子ども教室	仲川邦広
12月15日掲載	毎日新聞（福島版）	相馬野馬追 20歳以上の女性出場可否 来年2月に判断へ	二上文彦
12月15日掲載	朝日新聞（福島版）	野馬追 女性騎馬武者条件緩和検討へ 「未婚の二十歳未満」に異議	二上文彦
12月17日掲載	福島民報（相双・浜通り版）	自然の魅力楽しく体験 南相馬市博物館でキッズフェア	仲川邦広
12月23日掲載	福島民報（相双・浜通り版）	相馬家の歴史学ぶ 南相馬で成人大学講座	森 晃洋
12月25日掲載	読売民報（福島版）	女性騎馬武者「20歳」の壁 野馬追出場制限巡り議論	二上文彦
令和7年 1月13日掲載	福島民友	企画展「日本近現代の彫刻」開幕 南相馬市博物館、寄贈コレクション	堀 耕平
1月14日掲載	福島民報	南相馬市に寄贈の彫刻並ぶ 3月末まで企画展 国内外巨匠の作品56点	堀 耕平
1月20日掲載	福島民報（相双・浜通り版）	南相馬の方言に理解 講座 語彙や文法などで分析	佐藤義典

掲載・放映 年月日	メディア種別	[番組名] 記事表題・概要	担当学芸員
令和7年 1月26日掲載	福島民友（いわき・相双版）	へび模した火災よけ 南相馬市博物館で展示 3月1日まで	佐藤義典
2月19日掲載	福島民報（相双・浜通り版）	彫刻の楽しみ方語る 南相馬で吉野毅さん講演	堀 耕平
2月23日掲載	朝日新聞（福島版）	「野馬追」女性参加条件 未婚の「20歳未満」撤廃	二上文彦
2月23日掲載	毎日新聞（福島版）	相馬野馬追、女性の出場条件から「未婚の20 歳未満」を撤廃	二上文彦
2月25日発行	大人の休日倶楽部 2025年 3月号	古の伝統と歴史を受け継ぐ祭り 令和の街を駆ける騎馬武者、相馬野馬追	二上文彦

## ② 南相馬チャンネル「博物館通信」

東日本大震災後に開局し、エリア放送を行っている南相馬チャンネルの番組として、令和4年11月から開始。おおむね毎月1回・第3金曜日から1週間放映。

号数	テーマ	担当学芸員
令和6年4月	企画展「しらべてわかった！ おだかの自然② 哺乳類・鳥類」	仲川邦広
5月	企画展「しらべてわかった！ おだかの自然③ 昆虫」	仲川邦広
6月	企画展「五月中の申 御野馬追」	二上文彦
7月	甲冑の見かた	二上文彦
8月	常設展「戦争への道」	森 晃洋
9月	浦尻貝塚縄文の丘公園	杉浦弘佳
10月	企画展「縄文みなみそうま」	川田 強
11月	ミニテーマコーナー「チラシとまちのにぎわい」	森 晃洋
12月	サケ漁と雑魚漁ー海だけじゃない漁の話ー	佐藤義典
令和7年1月	エントランス展示「火伏のへびー屋根裏のおまじない・火伏の願いー」	佐藤義典
2月	企画展「寄贈コレクションで見る日本近現代の彫刻」	堀 耕平
3月	ミニテーマコーナー「婚礼の装い 花嫁のすがた」	佐藤義典

## (5) 広告の掲載依頼・情報提供

- ① 南相馬市：広報みなみそうま、南相馬市公式ウェブサイト、南相馬市役所記者クラブ
- ② 福島民報社：情報ナビ「たいむ」
- ③ 福島県文化センター普及課：『ふくしま文化情報』
- ④ 日本博物館協会：『博物館研究』  
など

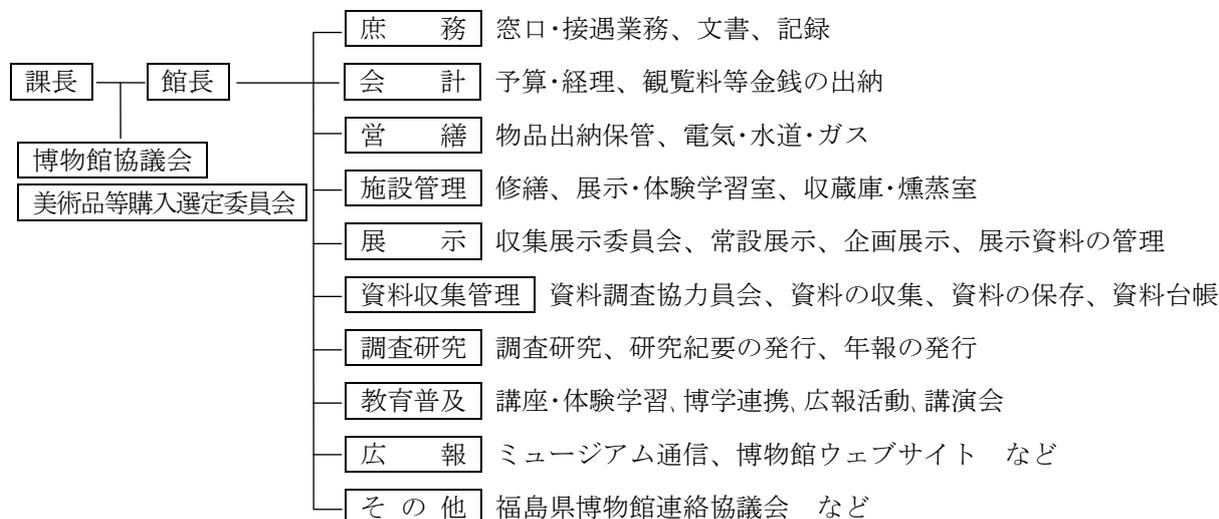
## (6) 出版物

- ① 年報（令和5年度実施状況）／博物館ホームページに公開
- ② 展示会関連
  - ・企画展パンフレット 企画展「五月中の申 御野馬追」A4 8ページ 2,000部
  - ・企画展図録 企画展「縄文みなみそうま」A4 68ページ 800部
- ③ その他
  - ・資料作品集「寄贈彫刻作品集」A4 56ページ 1,000部

## V 管理運営

### 1. 組織・職員

#### (1) 博物館組織



#### (2) 職員体制

職名	氏名	担当分野	備考
文化財課長	川田 強		
博物館長	堀 耕平	考古	再任用
主査	志賀 俊一		再任用
主任学芸員	二上 文彦	野馬追	
主任学芸員	森 晃洋	歴史	
主任学芸員	仲川 邦広	自然	
学芸員	佐藤 義典	民俗	
学芸員 (会計年度任用職員)	川崎 悠	民俗／郷土料理	
学芸員 (会計年度任用職員)	茂木 千恵美	(教育普及・歴史)	
事務補助 (会計年度任用職員)	品川 栄一郎		令和5年5月～
事務補助 (会計年度任用職員)	荒 哲也		令和6年3月～
事務補助 (会計年度任用職員)	宍戸 広美		令和6年4月～
事務補助 (会計年度任用職員)	山下 祐奈		令和6年4月～8月
事務補助 (会計年度任用職員)	藤田 雅		令和6年9月～7年3月

### 2. 各委員会等

#### (1) 博物館協議会

委員名簿 (令和6年4月1日～8年3月31日)

役職名	氏名	所属
会長	岩崎 真幸	学識経験者 (民俗)
副会長	栗村 文夫	一般社団法人南相馬観光協会

役職名	氏名	所属
委員	遠藤 友彦	南相馬市生涯学習推進委員会
委員	目黒 晶保	南相馬市私立幼稚園協会（青葉幼稚園）
委員	青田 雅子	小学校長会（南相馬市立太田小学校長）
委員	小林 喜徳	中学校長会（南相馬市立鹿島中学校長）
委員	中野 茂	高等学校長会（福島県立原町高等学校長）
委員	岡田 清一	学識経験者（歴史）
委員	竹谷 陽二郎	学識経験者（自然）
委員	吉野 高光	学識経験者（考古）

## [会議]

- ・第1回 令和6年6月6日  
議事／会長・副会長の選出について  
報告／令和5年度事業の実施状況について  
令和6年度事業計画および実施状況について
- ・第2回 令和7年1月14日  
諮問／令和7年度南相馬市立博物館事業計画について

## (2) 美術品等購入選定委員会

委員名簿（令和6年12月3日～7年1月21日）

役職・部会	氏名	所属等
委員・図書部会	岩崎 真幸	南相馬市立博物館協議会会長 南相馬市博物館収集展示委員会民俗部会長
委員	栗村 文夫	南相馬市立博物館協議会副会長
委員・図書部会	二上 裕嗣	南相馬市博物館収集展示委員会委員長 同歴史部会長
委員	玉川 一郎	南相馬市博物館収集展示委員会副委員長 同考古部会長
委員	末永 福男	南相馬市博物館収集展示委員会自然部会長
委員・図書部会	高橋 充	学識経験者 福島県立博物館副館長（専門分野 歴史）
委員・図書部会	川延 安直	学識経験者 福島県立博物館専門員（専門分野 美術）
委員・図書部会	田仲 桂	学識経験者 いわき市文化財保護審議会委員（専門分野 歴史）

## [会議]

令和6年12月20日

- 議事／委員長、副委員長の選出  
会議録署名人と書記の指名
- 諮問／南相馬市立博物館資料（野馬追大絵図）の購入について

(3) 収集展示委員会

委員名簿（令和6年4月1日～8年3月31日）

役職名	部 会	氏 名	職 名 等
部会長	自 然	末永 福男	あぶくま生物同好会会員
委 員		平 宗雄	日本洞窟学会会員
委 員		吉田 豊	学識経験者
委 員		湯澤 義秀	学識経験者
委 員		三田村敏正	福島虫の会会員
副委員長・部会長	考 古	玉川 一郎	南相馬市文化財保護審議会副会長
委 員		小野田義和	福島県立相馬高等学校教諭
委 員		佐藤 悦夫	元中学校教諭
委 員		門馬眞一郎	学識経験者
委員長・部会長	歴 史	二上 裕嗣	南相馬市文化財保護審議会会長
委 員		猪狩 正志	南相馬市文化財保護審議会委員
委 員		山本富士夫	南相馬市文化財保護審議会委員
委 員		水久保克英	元南相馬市博物館学芸員
委 員		板倉 世典	元南相馬市博物館学芸員
部会長	民 俗	岩崎 真幸	みちのく民俗文化研究所代表
委 員		川島 秀一	東北大学災害科学国際研究所シニア研究員
委 員		小林 初夫	奥羽大学図書館長
委 員		丹野香須美	福島県文化財保護審議会委員
委 員		二本松文雄	元南相馬市博物館学芸員

[会 議]

- ▶ 全体会 第1回：令和6年7月15日  
議 事／部会長、委員長および副委員長の選任について  
報 告／令和5年度事業について
- 第2回：令和7年2月9日  
議 事／令和7年度事業計画について
- ▶ 考古部会 第1回：令和6年7月23日  
議 事／令和6年度企画展について
- 第2回：令和6年12月8日  
議 事／企画展「縄文みなみそうま」の実施状況について  
令和7年度考古担当調査研究事業について
- ▶ 自然部会 令和7年3月15日  
報 告／令和6年度事業の実施状況について  
議 事／令和7年度以降の企画展内容について
- ▶ 歴史部会 令和7年3月26日  
報 告／令和6年度事業実施状況について  
議 事／令和7年度事業計画について
- ▶ 民俗部会 令和7年3月2日  
報 告／令和6年度事業（展示や寄贈品の詳細等について）  
協 議／民俗資料整理について

## (4) 資料調査協力員

協力員名簿（令和6年4月1日～7年3月31日）

役職名	地 区	氏 名	役職名	地 区	氏 名
会 長	原 町	相良 征一	委 員	原 町	柚原 恒貞
副会長	小 高	梅田 秀夫	委 員	原 町	門馬 和雄
副会長	鹿 島	八巻 安夫	委 員	小 高	鈴木 敬徳
委 員	原 町	高田 求幸	委 員	鹿 島	石橋 三男
委 員	原 町	八巻 仁			

## [会 議]

- ・第1回 令和6年8月21日

議 事／会長・副会長の選出について

報 告／令和5年度南相馬市立博物館事業の実施状況について

令和6年度南相馬市立博物館企画展示事業および調査研究事業について

- ・第2回 令和7年1月14日

議 事／令和7年度南相馬市博物館事業計画について

博物館資料の収集に関する各地区の情報について

## 3. 予 算

## 令和6年度の予算執行状況

## [歳 入]

科 目	当初予算額 (円)	決算額 (円)
博物館観覧料・使用料	1,523,000	1,727,250
博物館書籍頒布代	1,060,000	336,200
小高町史頒布代	33,000	45,500
鹿島町史頒布代	20,000	10,000
原町市史頒布代	64,000	68,500
自動販売機設置電気料	23,000	24,893
東ヶ丘公園電気料	96,000	190,312
教育寄附金	0	100,000
合 計	2,819,000	2,502,655

## [歳 出]

事業名	当初予算額 (円)	決算額 (円)
博物館協議会委員費	222,000	179,224
美術品等購入選定委員会委員費	128,000	73,976
博物館管理運営事業	35,893,000	34,376,639
博物館営繕事業	26,070,000	26,070,000
博物館企画展示事業	3,305,000	3,017,695
博物館学芸調査事業	1,631,000	1,448,225
博物館体験学習・講座事業	599,000	592,364
合 計	67,848,000	65,758,123

## 4. 入館者統計等

## (1) 令和6年度博物館入館者数・利用者数

入館者数				その他 利用者数	合計人数	開館日数
一般	高校生	小・中学生	小計			
6,641	86	1,214	7,941	3,963	12,329	306

その他利用者数内訳

利用事由	件数	利用者数
講座・体験学習・企画展関連事業など	42	1,063
出前講座 (講師派遣)	学校関係	17
	一般	33
発表・シンポジウム	1	37
キッズミュージアム	1	446
博物館実習受け入れ	1	1
職場体験受け入れ	1	2
その他機関との連携事業	4	267
取材・レファレンス	240	246
合計	340	3,963

## (2) 令和6年度博物館入館者数月別集計表

\*小数点以下四捨五入

年月	入館者数				開館日数	1日平均 入館者数
	一般	高校生	小・中学生	小計		
令和6年4月	387	8	31	426	25	17
5月	1,328	6	65	1,399	27	52
6月	398	3	88	489	25	20
7月	453	13	78	544	26	21
8月	443	10	64	517	27	19
9月	454	4	236	694	25	28
10月	586	7	32	625	27	23
11月	852	25	88	965	26	37
12月	250	1	48	299	24	12
令和7年1月	356	3	62	421	24	18
2月	653	1	332	986	24	41
3月	481	5	90	576	26	22
合計	6,641	86	1,214	7,941	306	26

## (3) 平成7年度～令和5年度博物館入館者数

\*小数点以下四捨五入

年度	入館者数				開館日数	1日平均 入館者数
	一般	高校生	小・中学生	小計		
平成7年度	—	—	—	19,604	186	105
8年度	12,648	147	2,025	14,820	304	49
9年度	10,690	183	1,965	12,838	302	43
10年度	9,768	372	1,756	11,896	307	39

年 度	入館者数				開館日数	1日平均 入館者数
	一 般	高校生	小・中学生	小 計		
平成11年度	9,744	82	1,593	11,419	309	37
12年度	8,589	115	2,437	11,141	313	36
13年度	10,253	85	2,539	12,877	315	41
14年度	8,536	111	2,184	10,831	312	35
15年度	10,487	237	3,388	14,112	307	46
16年度	10,008	174	2,892	13,074	303	43
17年度	13,279	201	3,480	16,960	304	56
18年度	10,422	198	3,538	14,158	308	46
19年度	11,294	61	3,709	15,064	302	50
20年度	10,153	64	3,129	13,346	309	43
21年度	8,458	108	3,058	11,624	301	39
22年度	8,387	143	3,251	11,781	288	41
23年度	1,889	6	414	2,309	195	12
24年度	5,106	29	1,842	6,977	308	23
25年度	5,793	47	1,480	7,320	306	24
26年度	7,044	89	1,541	8,674	308	28
27年度	9,205	119	1,324	10,648	308	35
28年度	6,996	106	1,182	8,284	307	27
29年度	6,522	82	1,340	7,944	306	26
30年度	6,306	96	1,138	7,540	301	25
令和元年度	5,417	59	1,326	6,802	309	22
2年度	3,350	57	885	4,292	259	17
3年度	4,453	35	861	5,349	255	21
4年度	5,855	73	947	6,875	304	23
5年度	6,128	66	1,110	7,304	305	24
6年度	6,641	86	1,214	7,941	306	26
合 計	233,421	3,231	57,548	313,804	8,847	35

## VI 資 料

### 1. 南相馬市立博物館条例

平成18年1月1日  
条例第203号

(設置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号)第18条、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第30条及び地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条第1項の規定に基づき、歴史、民俗、自然科学等に関する資料を収集し、保管し、展示して市民の学習、学術及び文化の発展に資するため、南相馬市立博物館(以下「博物館」という。)を設置する。

(名称及び位置)

第2条 博物館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名称 南相馬市博物館

位置 南相馬市原町区牛来字出口194番地

(事業)

第3条 博物館は、次に掲げる事業を行う。

## VI 資料

- (1) 歴史、民俗、考古、自然科学等に関する実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム等の資料（以下「博物館の資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 博物館の資料に関する専門的かつ技術的な調査研究を行うこと。
- (3) 博物館の資料に関する講演会、講習会、研究会等を開催すること。
- (4) 博物館の資料の利用に関し必要な説明、助言及び指導を行うこと。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な事業を行うこと。

(観覧料)

第4条 博物館の展示品（以下「展示品」という。）の観覧料は、別表のとおりとする。

2 市長は、期間を定めて特別の展示その他特別の催しを行う場合には、前項の規定にかかわらず、1,000円を越えない範囲内で別に観覧料を定めることができる。

3 展示品を観覧しようとする者は、観覧料を入館の際に納入しなければならない。

(観覧料の減免)

第5条 市長は、公益上必要があると認めるときは、前条の観覧料を減額し、又は免除することができる。

(利用の制限)

第6条 南相馬市教育委員会（以下「教育委員会」という。）は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、博物館の利用を拒むことができる。

- (1) 適当な指導者又は付添人のない6歳未満の者
- (2) 泥酔者
- (3) 他人に危害を及ぼし、若しくは他人の迷惑となるおそれのある物品を携帯し、又は動物を伴う者
- (4) 係員の指示に従わない者
- (5) 前各号に掲げる者のほか、博物館の管理上支障を及ぼすおそれがあると認めたる者

(協議会)

第7条 博物館法第20条第1項の規定に基づき、南相馬市立博物館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2 協議会の委員の定数は、10人以内とする。

3 協議会の委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 前2項に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

(委員会)

第8条 博物館の収蔵及び展示資料購入の選定に関して調査審議を行わせるため、市長の附属機関として南相馬市立博物館美術品等購入選定委員会（以下「委員会」という。）を置くことができる。

2 委員会は、前項の調査審議を行うほか、収蔵及び展示資料購入に関して市長又はその委任を受けた者に対して指導助言を行うことができる。

3 委員会は、20人以内の委員をもって構成する。

4 前条第3項及び第4項の規定は、委員会について準用する。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理その他この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成18年1月1日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の日の前日までに、合併前の小高町埴谷・島尾記念文学資料館条例（平成12年小高町条例第21号）、鹿島町歴史民俗資料館条例（昭和56年鹿島町条例第11号）又は原町市博物館条例（平成6年原町市条例第34号）の規定によりなされた処分、手続その他の行為は、それぞれこの条例の相当規定によりなされたものとみなす。

附 則（平成18年条例第243号）

この条例は、公布の日から施行し、改正後の南相馬市附属機関設置条例等の一部を改正する条例の規定は、平成18年1月1日から適用する。

附 則（平成18年条例第285号）

この条例は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成24年3月28日条例第12号）

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

附 則（平成24年12月20日条例第40号）

この条例は、公布の日から施行する。

## 別表（第4条関係）

## 南相馬市博物館観覧料

区 分	観覧料の額（1人につき）	
	個 人	団 体
一般	300円	250円
高校生	200円	150円
中学生及び小学生	100円	80円

## 備考

- 1 「団体」とは、20人以上の団体をいう。
- 2 引率者については、20人に1人の割合で無料とする。

## 2. 南相馬市立博物館規則

平成18年1月1日  
教育委員会規則第39号

## (趣旨)

第1条 この規則は、南相馬市立博物館条例（平成18年南相馬市条例第203号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

## (休館日)

第2条 南相馬市立博物館（以下「博物館」という。）の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日(休日に当たるときは、その直後の平日（日曜日及び祝日以外の日をいう。))
- (2) 1月1日から同月3日まで及び12月29日から同月31日までの日

2 前項の規定にかかわらず、南相馬市教育委員会（以下「教育委員会」という。）は、特に必要があると認めるときは、臨時に休館し、又は前項に規定する休館日に臨時に開館することができる。

## (開館時間等)

第3条 博物館の開館時間は、午前9時から午後4時45分までとする。ただし、博物館に入館できる時間（以下「入館時間」という。）は、午前9時から午後4時までとする。

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会は、特に必要があると認めるときは、同項に規定する開館時間又は入館時間を臨時に変更することができる。

## (観覧券の交付)

第4条 博物館の館長（以下「館長」という。）は、条例第4条の規定による観覧料を納入した者に対し、観覧券（様式第1号）を交付するものとする。

## (観覧料の減免及びその手続)

第5条 条例第5条の規定により、次の各号に掲げる場合においては、それぞれ当該各号に定める額の観覧料を減額し、又は免除するものとする。

- (1) 市の区域内に存する小学校、中学校及び高等学校の児童生徒並びに市内に住所を有する小学生、中学生及び高校生が観覧するとき 全額
- (2) 市の区域外に存する小学校、中学校及び高等学校の児童生徒が学校教育活動として観覧するとき 半額  
(引率者にあつては全額)
- (3) 市が主催する講習会、講座等の活動として観覧するとき 全額
- (4) 他の地方公共団体が主催する講習会、講座等の活動として観覧するとき 半額（引率者にあつては全額）
- (5) 前4号に掲げる場合のほか、減免をすることが公益上適当であると認めるとき 全額

2 前項の規定により観覧料の減免を受けようとする者（前項第1号に規定する者を除く。）は、観覧しようとする日までに観覧料減免申請書（様式第2号）を館長に提出し、その承認を受けなければならない。ただし、休日その他特別の日に博物館を開放する場合は、この限りでない。

3 館長は、前項本文の規定により観覧料の減免を承認したときは、観覧料減免承認書（様式第3号）を交付するものとする。

## (遵守事項)

第6条 博物館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 博物館の施設、設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。
- (2) 館長の承認を得ないで、展示品の模写又は撮影をしないこと。
- (3) 所定の場所以外において、喫煙又は飲食をしないこと。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、館長が指示する事項

## VI 資料

### (損害賠償)

第7条 博物館を利用する者が故意又は過失により博物館の施設、設備、展示品等を損傷し、又は滅失したときは、教育委員会の定めるところにより、その損害を賠償しなければならない。

### (協議会)

第8条 南相馬市立博物館協議会（以下「協議会」という。）に会長及び副会長を1人置き、委員の互選により定める。

2 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は欠けたときは、その職務を代理する。

第9条 協議会の会議は、会長が招集し、会長がその議長となる。

2 協議会の会議は、委員の過半数が出席しなければこれを開くことができない。

3 協議会の会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 協議会の庶務は、南相馬市博物館において処理する。

### (資料の寄託)

第10条 博物館は、展示又は調査研究の目的で博物館に収蔵する資料（以下「資料」という。）の寄託を受けることができる。

2 博物館に資料を寄託しようとする者は、南相馬市立博物館収蔵資料寄託申出書（様式第4号）により館長に申し出るものとする。

3 館長は、前項の規定により資料の寄託の申出があった場合において、博物館の資料として当該寄託資料を保管し、又は一般の利用に供することが適当と認めるものについて受託することができる。

4 館長は、資料を受託したときは、南相馬市立博物館収蔵資料受託書（様式第5号）を寄託者に交付する。

5 館長は、受託した資料を展示する場合において、寄託者の同意があるときは、当該寄託資料に寄託者の氏名等を表示することができる。

### (寄託期間等)

第11条 館長は、受託した資料については、原則として2年間受託するものとし、博物館の資料の管理上支障があるとき、又は寄託に際して博物館と寄託者の間に寄託期間の定めがある場合において寄託期間が満了したときは、受託した資料を寄託者に返還するものとする。

2 館長は、受託した資料について、博物館と寄託者の間に寄託期間の定めがある場合において寄託期間が満了する日の1月前までに寄託者から別段の申出がないときは、その満了の日の翌日から起算して1年間寄託を継続する旨の申出があったものとみなして、当該寄託期間を延長するものとする。その延長に係る寄託期間が満了した場合も、同様とする。

### (寄託等に要する費用の負担)

第12条 資料の寄託及び返還に要する運搬費その他の費用は、寄託者の負担とする。ただし、館長が特に理由があると認めるときは、この限りでない。

### (寄託資料の損害賠償)

第13条 博物館の責めに帰することができない理由により、受託した資料を亡失し、又はき損したときは、博物館は、その損害賠償の責めを負わない。

### (資料の寄贈)

第14条 博物館に資料を寄贈しようとする者は、南相馬市立博物館収蔵資料寄贈申出書（様式第6号）により館長に申し出るものとする。

2 館長は、前項の規定により資料の寄贈の申出があった場合において、博物館の資料として適当と認めるものについて受納することができる。

3 館長は、資料を受納したときは、南相馬市立博物館収蔵資料受納書（様式第7号）を寄贈者に交付する。

### (寄贈資料の取扱い)

第15条 館長は、寄贈された資料を展示する場合において、寄贈者から申出があるときは、当該寄贈資料に寄贈者の氏名等を表示することができる。

### (寄贈に要する費用の負担)

第16条 第12条の規定は、寄贈に要する費用の負担について準用する。

### (資料の館外貸出し)

第17条 博物館の資料は、貸出しすることができる。

2 資料の貸出しを受けることができる者は、次に掲げる者とする。

(1) 国立の博物館、博物館法（昭和26年法律第285号）第2条第1項に規定する博物館及び同法第31条第2項に規定する指定施設

(2) その他館長が適当と認める者

3 資料の館外貸出しを受けようとする者は、市立博物館館外貸出許可申請書（様式第8号）を提出し、館長から市立博物館館外貸出許可書（様式第9号）の交付を受けなければならない。

（事業計画の作成及び報告）

第18条 館長は、毎年翌年度において実施しようとする事業計画を協議会の諮問を経て作成し、年度末までに南相馬市教育委員会教育長（以下「教育長」という。）の承認を受けなければならない。

2 館長は、年度終了後1月以内に事業計画の実施状況を取りまとめ、教育長に報告しなければならない。

（博物館の警備及び防災）

第19条 館長は、年度始めに博物館に関する警備及び防災計画を作成し、教育長に報告しなければならない。

（その他）

第20条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

（施行期日）

1 この規則は、平成18年1月1日から施行する。

（経過措置）

2 この規則の施行の日の前日までに、合併前の小高町埴谷・島尾記念文学資料館管理規則（平成12年小高町教育委員会規則第12号）、鹿島町歴史民俗資料館条例施行規則（昭和56年鹿島町教育委員会規則第1号）又は原町市博物館規則（平成7年原町市規則第1号）の規定によりなされた処分、手続その他の行為は、それぞれこの規則の相当規定によりなされたものとみなす。

附 則（平成18年教委規則第51号）

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成20年教委規則第5号）

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則（平成24年3月30日教委規則第2号）

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則（平成24年12月20日教委規則第7号）

（施行期日）

1 この規則は、公布の日から施行する。

（様式に関する経過措置）

2 この規則の施行の際、この規則による改正前の南相馬市立博物館規則の規定により作成されている様式書類は、なお当分の間これを使用することができる。

附 則（令和6年3月26日教委規則第8号）

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（令和7年2月14日教委規則第1号）

この規則は、令和7年4月1日から施行する。様式第1号（第4条関係）

様式第2号（第5条関係）

様式第3号（第5条関係）

様式第4号（第10条関係）

様式第5号（第10条関係）

様式第6号（第14条関係）

様式第7号（第14条関係）

様式第8号（第17条関係）

様式第9号（第17条関係）

### 3. 南相馬市立博物館美術品等購入選定委員会要綱

平成18年1月1日  
教育委員会告示第11号

（趣旨）

第1条 この告示は、南相馬市立博物館条例（平成18年度南相馬市条例第203号。以下「条例」という。）第8条の規定に基づき、南相馬市立博物館美術品等購入選定委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

（組織）

第2条 委員会に委員長及び副委員長を1人置き、委員の互選により定める。

## VI 資料

- 2 委員長は、委員会を代表し、会務を掌理する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は欠けたときは、その職務を代理する。

(任務)

第3条 委員の任務は、教育長の諮問に応じ、次のとおりとする。

- (1) 南相馬市立博物館の収蔵資料購入の選定
- (2) 南相馬市立博物館の展示資料購入の選定
- (3) 前2号に掲げるもののほか、収蔵及び展示資料購入に係る指導助言

(専門部会)

第4条 専門的な調査選定を行うため、委員会に専門部会を置き、必要に応じて審議する。

- 2 専門部会は、甲冑部会、刀剣部会、図書部会及び美術工芸部会とし、委員会の委員をもって構成する。
- 3 各専門部会の委員は、5人以内とする。

(会議)

第5条 委員会及び専門部会の会議は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

- 2 委員長は、委員会及び専門部会の会議の審議結果を南相馬市教育委員会教育長（以下「教育長」という。）に答申する。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、南相馬市博物館において処理する。

(その他)

第7条 この告示に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この告示は、平成18年1月1日から施行する。

## 4. 南相馬市博物館収集展示委員会設置要綱

(設置)

第1条 南相馬市博物館（以下「博物館」という。）に収蔵する資料の収集並びに展示計画について専門的な指導助言を得るため、南相馬市博物館収集展示委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(組織)

第2条 委員会は、20人以内の委員をもって構成する。

- 2 委員会の委員は、南相馬市教育委員会が委嘱する。
- 3 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長副委員長は、委員の互選により選出する。
- 4 委員長は、委員会を代表し、会務を掌理する。
- 5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長事故あるときは、その職務を代理する。

(任務)

第3条 委員の任務は、教育長の求めに応じ、次のとおりとする。

- 一 博物館の収蔵資料の収集及び情報の提供。
- 二 収蔵資料の調査研究にかかる指導助言。
- 三 収蔵資料の展示計画及び展示にかかる指導助言。

(専門部会)

第4条 専門的な調査研究を行うため、委員会に専門部会を置くことができる。

- 2 専門部会は、歴史部会、民俗部会、考古部会、自然部会とし委員会の委員をもって構成する。
- 3 専門部会に部会長を置き、部会に属する専門的事項を掌る。

(任期)

第5条 委員会の委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集し、専門部会は、部会長が随時招集することができる。

- 2 部会長は、専門部会の会議の内容を委員長に報告し、委員会の会議については、委員長が専門部会の内容も含めて教育長に報告する。
- 3 委員長が特に必要と認めた場合には、専門的分野に関する学識経験者を特別委員として委嘱するよう教育長に具申することができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、南相馬市博物館において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、教育長が定める。

付 則

この要綱は、平成18年1月1日から施行する。

## 5. 南相馬市博物館収集展示委員会運営細則

(目的)

第1条 南相馬市博物館収集展示委員会の円滑な運営を図るため、同設置要綱第8条の規定により、運営に関し必要な事項を定める。

(組織)

第2条 専門部会は、5人以内の委員をもって構成する。

2 専門部会の部会長は、部員の互選により選出する。

(専門部会の任務)

第3条 専門部会の任務は、次のとおりとする。

- 一 部会に属する資料の調査、収集、保管、展示にかかる指導助言
- 二 常設展、企画展等の展示計画並びに展示方法・期間にかかる指導助言
- 三 部会相互の情報交換と連携・協力

(会議)

第4条 委員会の会議は、毎年4月と10月の2回招集し、委員長がその議長となる。

- 2 専門部会は、その部会に属する企画展の開催1年前までに招集し、部会長がとりまとめる。
- 3 企画展にかかる専門部会は、2回以上招集する。
- 4 専門部会の部会長は、企画展の計画案を委員会に提案し、承認を得る。
- 5 部会長は、企画展の実施状況をとりまとめ、委員会に報告する。

(庶務)

第5条 専門部会に関する庶務は、南相馬市博物館の担当学芸員が処理する。

付 則

この運営細則は、平成18年1月1日から施行する。

## 6. 南相馬市博物館資料調査協力員会設置要綱

(目的)

第1条 この要綱は、南相馬市博物館に収蔵する資料の収集にあたり、資料の所在情報を得るため南相馬市博物館資料調査協力員会（以下「協力員会」という。）を設置する。

(組織)

第2条 協力員会は、30人以内の協力員を持って構成する。

- 2 協力員会の協力員は、南相馬市教育委員会が委嘱する。
- 3 協力員会に会長及び副会長を置き、会長、副会長は、協力員の互選により選出する。
- 4 会長は、協力員会を代表し、会務を掌理する。
- 5 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは、その職務を代理する。

(任務)

第3条 協力員の任務は南相馬市博物館館長（以下「館長」という。）の求めに応じ次のとおりとする。

- 一 資料所在の情報提供
- 二 資料所有者の紹介
- 三 資料の収集協力

(任期)

第4条 協力員会の協力員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 協力員に欠員が生じた場合の補欠の協力員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第5条 協力員会の会議は、会長が招集し、部会は部会長が随時招集することができる。

2 会長は、協力員会の会議の内容を、部会長は部会の会議の内容を館長に報告する。

(庶務)

第6条 協力員会の庶務は、南相馬市博物館において処理する。

## VI 資料

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、協力委員会の運営に関し必要な事項は、教育長が定める。

付 則

この要綱は、平成18年1月1日から施行する。

付 則

この要綱は、平成18年9月4日から施行する。

## 7. 南相馬市博物館の資料収集に関する基本方針

令和3年7月1日

はじめに

南相馬市博物館（以下「当館」）は、南相馬市と周辺地域に関する自然科学資料および人文科学資料を収集・保管し、展示することにより、市民の学術・文化の発展に資することを目的とした生涯学習・研究機関である。当館が収集する資料は、当地域の自然や文化の特色を表すとともに、当地域の成り立ちに関する理解を深めるものである。したがって、収集資料を調査や研究、教育普及事業に活用することは、人びとの科学的学習意欲の向上に資することにつながる。加えて、収集資料は当館における活動の基盤となると同時に、その活動を保証する役割を持つ。

また、当館は資料の収集活動によって当地域に伝わる貴重な資料の散逸を防ぐ社会的役割を担っている。そして、収集した資料を市民の学習活動を支える体系的な資料群として保存し、地域共通の財産として将来にわたって確実に継承していくことが求められる。

当館の生涯学習・研究機関の目的・責務を果たしていくために、活動の基盤となる資料の収集について基本方針を定める。

### 1 資料収集の方針

当館では、収集資料が膨大になりつつある一方、多岐にわたる資料を将来にわたって体系的・計画的に収集・保管していく必要がある。このため、従来の資料収集基準を踏まえ、各分野において対象となる資料の特徴や特性に応じて、分野ごとに収集方針を定めることとし、当面の資料収集方針を以下のとおりとする。

#### 1) 自然

自然分野の資料はおもに自然史標本（または標本）と呼ばれる。自然史標本は有史以前から現在にいたるまでの南相馬市と周辺地域の自然の成り立ちを知るうえでは不可欠な存在であり、自然とともに形作られてきた地域の歴史や文化を理解するうえでも重要な役割を持っている。この点が、自然分野を研究し資料を収集する基本的理念である。

##### i) 収集対象

当館で自然の分野が扱う資料は、生物標本と地学標本に大別される。対象となる自然環境がつねに変動するという性質上、自然史標本の収集は恒久的に行うことが求められるが、実際には収蔵スペースや管理コストの限界といった制約が存在するため、収集資料の対象を選定する場合がある。おもな収集対象については以下のとおりとする。

- 生物標本／哺乳類、鳥類、魚類、両生類、爬虫類、昆虫、節足動物、軟体動物、維管束植物、蘚苔類、藻類、菌類、生態標本等の動植物標本
- 地学標本／動植物化石、岩石、鉱物、地層剥ぎ取り標本など
- その他／動植物・化石等のレプリカ資料、当地域で調査研究が行われた際の写真・映像・音声・ノート等の記録資料、当地域の自然史研究者の採集道具や蔵書等所蔵品など

##### ii) 収集方針

- ◇標本収集の対象となる地域範囲は当地域を中心とし、南相馬市の生物・地質との関連が認められる地域の標本についても積極的に収集する。
- ◇収集が十分でない分類群、未収集産地、周辺地域において新種等の発表があったもの、生態系や人間生活への影響が懸念される移入生物（外来生物）も収集する。
- ◇化石の産地として知られる南相馬市は古生代・中生代・新生代の地層が観察でき、資料の状態や学術的な価値を勘案し、化石標本は積極的に収集する。

#### 2) 考古

考古分野で扱う資料は、文字や記録が十分ではない時代、地域の人びとの具体的な営みや社会を知るうえでは不可欠で、南相馬市と周辺地域の歴史を理解するためには重要な役割がある。この点に考古資料を収集することの基本理念がある。

考古分野で対象とする資料の多くは、文化財保護法により保護の対象となっている遺跡の行政目的の発掘調査

の出土品として収集される。

i) 収集対象

対象とする資料は、「出土品の取扱い基準」（福島県教育委員会 平成28年4月1日）に準じるものとし、旧石器時代から中世（具体的には織豊期）までの考古資料が中心となる。しかし、当地域の歴史を物語るうえで重要と認められる場合は、近世・近代・現代の資料も考古分野の資料に加える。おもな収集対象は以下のとおりとする。

- 出土品／土器・陶磁器、土製品、石器・石製品、木器、骨角器、金属器、鉄塊、瓦・磚、ガラス製品、鉄滓等製品の副産物、粘土塊等その他の原材料、食料残渣等、家畜等の遺体、遺構を構成する部材、人骨、木炭、焼失住居の焼失材
- 記録類／発掘調査等で作成された写真資料や図面資料等の記録類のほか、他の博物館等研究紀要や発掘調査報告書、現地説明会資料など

ii) 収集方針

- ◇ 南相馬市が発掘調査を実施し、調査報告書を刊行した調査の出土品等は、「出土品の取扱い基準（平成28年4月1日）」に準じて、原則として当館で保管する。
- ◇ 大学等研究機関による発掘調査等で出土した遺物や作成された記録類、他の研究機関等で過去に採取され保管されている資料は、南相馬市の遺跡から出土したことが明らかな資料は収集する。
- ◇ 泉官衙遺跡等行方郡家に関わる資料、真野古墳群に関わる金属器等の国指定史跡等の重要な遺跡に関する資料は重点的な収集に努める。
- ◇ 南相馬市内に所在する遺跡の表面採取等で得られた、個人が所有するコレクションについては、当地域の歴史を理解するうえで必要と判断される資料は、市外に散逸しないように積極的に収集する。

3) 歴史

歴史の分野で取り扱う資料は、各時代における政治や経済、社会、文化、生活等を知るうえで必要不可欠な存在であり、その地域にとっての「履歴書」にたとえられるように、地域の歴史を明らかにする手掛かりとなる。これらの歴史資料を収集・整理・保管・活用することにより、南相馬市と周辺地域の歴史をより具体的に理解することができる。そして、当館には調査・研究の成果を市民に還元する役割があり、この点に歴史資料を取り扱う基本的な理念がある。

なお、歴史資料は本来保管され続けた場所（家や行政機関等）で後世に伝えていくという「現地保存の原則」が望ましい。しかし、所蔵者の事情により資料の散逸や滅失の恐れがある場合、それを防ぐ役割を博物館は担っている。

i) 収集対象

対象とする時代は、中世・近世・近代・現代までの歴史資料を原則とし、中世以前についても収集対象とする。収集範囲は旧中村藩領を原則とし、おもな収集対象は以下のとおりとする。

- 文献史料／古文書、日記、系図、典籍など
- その他／絵図、書跡、絵画、彫刻、工芸品、建築、画像、映像、音声など

なお、文献史料のうち、すでに活字化され出版された史料集等に関しては、当地域の歴史的事実を裏付ける史料でもあるため、調査・研究の必要に応じて収集の対象とする。

ii) 収集方針

- ◇ 各時代の特徴を示すとともに当地域の歴史的価値や希少性等を検討し、当館が収集するに値すると判断される資料について収集する。
- ◇ 当地域の個人や行政区等の組織が保存する資料が、諸事情により散逸や滅失の危険がある場合には、一括資料として収集する。
- ◇ 他の地域と比較することで当地域の特徴を明らかにすることができることから、他の地域の資料をはじめ、中央・地方組織や民間が発行した当地域に関する資料等も収集する。
- ◇ 当地域に関する歴史資料は、すでに既存博物館等の研究施設に所蔵され、その情報が公表されている場合がある。このような情報を積極的に収集することに努めるとともに、該当施設で発行されている資料集や報告書等の刊行物を収集することで資料の充実を図る。
- ◇ 中世あるいはそれ以前にさかのぼることが明らかな歴史資料は、歴史的・文化的価値が高いと認められることから、積極的に収集し、資料の充実を努める。
- ◇ 近世・近代・現代の資料は下表にかかげる項目を収集資料の重要なテーマとして設定する。

近 世	近代・現代
藩政、給人・郷士制度、家・家族制度、諸産業、信仰、飢饉と復興政策、戊辰戦争等、当地域の近世の歴史や生活等を示す資料	近代の政治制度や政治運動および産業の発展と展開を示す近代化に関する資料

近 世	近代・現代
藩の財政再建と農村の復興を目指した報徳仕法とそれに携わった人物に関する資料	近代以降の報徳仕法の展開を示す資料およびそれに携わった人物に関する資料
江戸幕府や中村藩以外の藩が、中村藩をどのように位置づけていたかを示す資料	戦争に関する資料等（西南戦争～アジア太平洋戦争）
相馬駒焼や大堀焼等の美術工芸品や書画等、当地域にゆかりのある歴史的・文化的に価値の高い美術工芸資料	
	戦後復興、高度経済成長に関する資料
	教育・出版・芸術・音楽・スポーツ等、郷土の文化や人物に関する資料

#### 4) 民 俗

私たちの歩んできた暮らしを具体的に伝える民具等には、今後新たな収集が難しいものも多い。民具は生活の具としての用を終えると廃棄されるため、保存が難しい。劇的に変貌する現代社会において、博物館がこれらの資料を後世に残し生活様式の推移の理解に供することは、社会への貢献につながる。

当館は南相馬市合併前の旧市町が収集した民具等を、個別な資料の優劣だけではなく、生活の変遷を伝えるまとまりをもった資料群として統合・再整理して公開し、新たな価値を提示していく。

##### i) 収集対象

民俗分野では、南相馬市と周辺地域の衣食住や信仰、年中行事等に関する民俗・習慣に関する資料を扱う。収集資料の対象は以下のとおりとする。

- 衣食住、生産・生業、交通・運輸・通信、交易、社会生活、信仰、民俗知識、民俗芸能、競技・娯楽・遊戯、人の一生、年中行事に関する資料（民具）
- 映像・音声記録（写真・ビデオ・録音テープ）など
- 民俗に関わる参考図書、研究者の蔵書など

##### ii) 収集方針

当地域は小規模な農村・山村・漁村・町場が関わり合いながら、生活と生産活動を続けてきた。そして、それぞれの地域の生活様式がコンパクトに凝縮されていることに特徴がある。この地域性を表すため、各地区の生活用具や生産用具をバランスよくまとまりをもった資料群として収集する。また、日常生活の変遷、特に日常と非日常の「ハレ」と「ケ」の生活が再現できるような資料の収集に努める。

なお、当地域以外の資料であっても、当地域の生活を理解するために必要な資料は収集する。

しかし、民俗資料は生活全般にかかわり、資料も多岐にわたることから、特に当地域の民俗を特徴づける資料として、以下の資料を優先的に収集する。

- ◇生業関係資料／当地域の暮らしを支える生業関係に関しては、紀年銘民具（特に農具）、産業技術の変遷を明らかにすることができる近代の野鍛冶資料、当地域の自然条件を生かした特徴的な生業である製塩関係資料の収集に努める。
- ◇身近にある衣文化、食文化関係資料／生活の変遷を見るうえで不可欠であるが、意識して保存しないと容易に滅失する。そこで、「ハレ」だけではなく、意図的に「ケ」にも視点を当てて資料を収集する。
- ◇お浜下り関連資料／神霊が海岸に下りて霊威を回復させるお浜下りは、浜通り各市町村に及び約2割が南相馬市に分布する。しかし、東日本大震災と近年の社会情勢から消滅の危機にあるため、お浜下りとそれに付随する民俗芸能に関連する資料を積極的に収集する。また、映像記録を制作・公開し、無形民俗文化財の保存・継承を図る。
- ◇絵馬・祈願品／これらは心意の表現であり、人びとの思いを解明するために不可欠な資料である。神社・仏閣等に奉納された、馬体安全を祈願した絵馬のほか、漁労・織物等の産業隆盛を祈願した産業絵馬、お札等の祈願品を収集する。
- ◇妙見信仰関係資料／中世以降の相馬・双葉地方では、妙見信仰は領主・藩主であった相馬氏の守護神としてあるとともに、土地の神である鎮守や馬の守護神として広く庶民の信仰を集めてきた。その信仰は現在もこの地方の社寺や「相馬野馬追」に受け継がれており、この地方の精神文化を理解するうえで重要な妙見信仰に関する資料を収集する。
- ◇口承文芸・方言・民謡関係資料／昔話・伝説等の音声記録やそれらを文字化した資料を作成・保存・公開する。

なお、民俗資料は、生活に密接に関わるものであり、用具として現在も利用できる特徴がある。この特性を生かし、資料を収集・保存するだけでなく、状況に応じて修理・再利用し、農具や紡績具の使用再現や蓄音機を用いたコンサート等、社会教育や多様な市民活動での活用を図る。については、活用の観点から必要と判断さ

れる資料も収集する。

また、従来の「民具」の範疇から逸脱する電気製品等の大量生産品や流通品等は、日常生活を再現でき、かつ暮らしの変遷をたどることができる。これらは教育資料としても有効であるため、収集に努める。

### 5) 美術・工芸

南相馬市と周辺地域に関連のある美術・工芸作品を収集・保存し、公開することは、作者が影響された体験や郷土への愛情、作品の意図、当時のようすを人びとに再考するきっかけとなり、多様な価値観を育むことができる。

現在、美術館がない南相馬市にとって美術・工芸作品を収集することは、それらの散逸あるいは消滅を防ぎ、当地域の価値のある財産を守ることにつながるため重要である。

#### i) 収集対象

中央の美術界で活躍した当地域出身、またはゆかりのある作家の作品および郷土の風景等、当地域を題材にした作品を収集し、以下の近代・現代美術を収集対象の中心とする。

- 洋画・日本画・版画・工芸・彫刻・デザイン・写真など
- 当地域を代表する作家に大きな影響を与えた作家等の作品

当館が所蔵する作品を拡充・補完するうえで必要な作品

#### ii) 収集方針

- ◇美術工芸的に優れたものについては、美術的価値や希少性等を鑑み、他の美術館と連携し、専門家の指導のもと、当館が収集・保存するに値すると判断される場合、その作品を収集する。
- ◇作品の意図がふさわしいと考えられるもの、展示会での評価、作家知名度、寸法、館キャパシティー等を勘考し、収集する。

### 6) 野馬追

国指定重要無形民俗文化財「相馬野馬追」は、旧中村藩領の地域アイデンティティーを示す代表的な伝統行事であり、地域のシンボルとも位置付けられる重要な存在である。無形民俗文化財という性質上、それに関わる人びとによって伝承され、社会情勢によって時に変化が生ずる可能性があるため、その永続的な伝承にあたっては、普及活動等による人材育成が必要であり、それらの活動の基礎となる資料の調査研究は不可欠である。

当館はその資料を、収集・保管・調査研究・展示する特色ある博物館として開館し、野馬追の保存・伝承の一翼を担う機能を有する施設でもあることから、より積極的な資料収集を進める。

#### i) 収集対象

野馬追は多面的要素から成り立つ伝統行事であることから、当分野の資料は歴史・民俗・美術等、多岐にわたる。近世の野馬追絵画類・文書類や、当地域ゆかりの武器武具類といった、希少性が極めて高い資料を主とし、野馬追の歴史を示し、なおかつ行事に欠かせない下記の資料を収集対象とする。

- 絵画資料／絵馬、絵巻、絵画等
- 文書資料／野馬追に関わる古文書、行政資料、新聞記事、日記、出版物等
- 記録資料／写真、音声、映像
- 美術工芸資料／甲冑、刀剣、馬具、旗等

#### ii) 収集方針

- ◇絵画資料／武家文化を受け継ぐ行事性質の視点から、近世に描かれたものが最優先となり、武家行事から神社の神事へと変移した近代以降については、それらの経過が表現された歴史的価値を有するものを収集する。なお、近代以降の作家による絵画作品は、作家知名度・寸法・館キャパシティー等を勘案し、収集する。
- ◇文書資料／野馬追の歴史が記されたものであれば、歴史的価値の高いものを優先とし、中近世・近代は言うまでもなく、現代資料については長期的視点に基づき、編年を示す資料として例年発行される広報出版物等も収集する。特に、大きな社会変動・災害時等の野馬追の動向を示す資料は、将来の野馬追保存に寄与する部分が多いことから、現代資料の中でも注力して収集する。
- ◇記録資料／写真・動画類は家庭用カメラ普及以前のものが優先対象となり、文書類同様に編年を示すものとして、例年の行事写真・動画も収集する。
- ◇美術工芸資料／武器武具類は、旧領主相馬家をはじめ、当地域ゆかりの資料を最優先に収集する。なかでも甲冑・馬具は、参加者として行事を支える騎馬武者たちの参考に寄与する部分が多いことから、当地域以外の資料でも、歴史的価値を有するもの、美術工芸的な優品、保存状態が良好なもの、バリエーションに富むもの等を総合的に判断する。また、保存状態が悪いものや現代の製作品は、ハンズオン等の教育普及で活用可能な資料を収集とする。

なお、収集された資料の調査研究成果を積極的に発信し、当館が野馬追資料のセンター的機能を有する施設であることを広く周知することを進め、資料情報が寄せられやすい下地を作る。

## 7) 東日本大震災関連資料

日本列島で発生した、または今後発生が予想される地震・津波・台風・洪水・火山等の自然災害に対して、被災した人びとや社会がどのように対応し、災害から得た教訓と復興へ向かう姿を克明に記録して保存しつづけることは、歴史をはじめとする各分野において大きな意義がある。

特に、平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震と大津波、この地震に端を発した東京電力株式会社福島第一原子力発電所の放射性物質漏洩事故（以下「原発事故」）による一連の災害は「東日本大震災」とされ、社会的に大きな影響を与えたことから、被災地の博物館として、これらに関連する資料を体系的に収集・保存する。

### i) 収集対象

東北地方太平洋沖地震によって発生した大地震と大津波の被害ならびに原発事故を風化させることのないように、被害の実態を示す多様な資料を対象とする。収集資料の対象は以下のとおりとする。

- 東北地方太平洋沖地震に関連した被害の実態を示す資料
- 原発事故と市民の避難生活の実態を示す資料
- 東日本大震災からの復興に関する資料

### ii) 収集方針

- ◇東北地方太平洋沖地震に関する資料は、津波の威力を示すゆがんだ道路標識に代表される実物資料や、各機関や個人が作成または撮影した写真や動画等の記録資料のほか、被災した人びとの心に刻まれた記憶や各種の証言等の資料も積極的に収集する。
- ◇原発事故に関する資料として、避難指示区域を示す道路標識、放射線量計や防護服、各地区に設置された放射線量測定機器のほか、写真や映像記録、放射線量の増減を示したデータ類、被災した人びとの証言や記憶に関する資料等を積極的に収集する。
- ◇東日本大震災からの復興事業ならびに復興に向けた取り組みに関する行政文書、記録誌、統計資料等の記録、復興状況やまちの移り変わりを示す写真、動画等の資料を積極的に収集する。

## 2 資料収集の方法

資料は、収集方針を踏まえ、当館の学芸活動ならびに南相馬市教育委員会の調査により収集する。また、収集方針に基づき、個人や他の機関からの寄贈、寄託ならびに購入を行い、収集を行う。

多量な資料、また保管・保存が困難とみられる資料の寄贈・購入等の申出があった場合は、収集展示委員会や関連する博物館・大学等の専門家・機関と協議し、地域資料の散逸を防ぐことを踏まえ、所蔵者の意向と資料価値を確認、検討したうえで、寄贈等の受け入れを判断する。

また、資料の受け入れに際しては、所有者のプライバシー保護の観点から個人情報の取扱いには十分に留意する。

## 3 収集資料の保存

収集資料は資料カード等を付し、資料の閲覧や研究、活用に利用できる状況を維持する。そして、これらの収集資料を良好な状態で保存するため、資料の管理担当者は資料室の適切な環境維持・管理に留意し、保存科学研究の成果を取り入れるなどさまざまな工夫を行うとともに、資料を円滑に利用できる体制を整える。

収集した資料の状態が著しく損なわれている場合も、資料が持つ本質的価値が失われていないときは、保存処理等の措置を講じて、資料価値の保全に努める。

また、収集資料の質・量ともに充実し、適切に保存するためには、分野ごとの特性を考慮しつつ、必要な収集スペースの確保を図る。

## 4 収集資料の利活用

収集された資料は、南相馬市内外の研究や展示および学習支援活動に利用する。博物館以外への資料の貸出については、広く南相馬市の文化を周知することにつながることから、資料の状況を踏まえながら、積極的に認める。また、博物館の利用者が博物館資料を閲覧・利用できるよう収集資料のデータベース等のシステムを構築する。

さらに、博物館活動以外にも、生涯学習や写真撮影等の芸術活動といった多様な市民活動への利用も資料の状況に応じて推進する。

## 5 収集資料の情報発信

当館で収集する資料等およびこれらに関する情報は、市民はもとより国民共有の資産である。したがって、収集資料の電子情報化を推進することにより積極的な公開を図る。そして、資料情報を横断的に検索できるシステムを充実させ、収集資料情報を積極的に発信する。その際には、他の大学や博物館等の研究機関とも連携した情報発信に努める。また、市民活動や他機関で行う研究・展示等への活用を促進する。

## 6 収集資料の除籍

収集した資料の中で著しい損傷を受けた資料が見つかり、採集情報等の資料に関わる本質的な情報の付与が不

## 7. 南相馬市博物館の資料収集に関する基本方針

可能となった場合は、当該資料の学術的価値は滅失したと判断される。また、収集資料としての希少性が著しく低く、多様な活用にも適さないと判断された場合は、博物館長は南相馬市博物館収集展示委員会の意見を求め、資料の基本的な記録を作成し、所定の手続きを経て資料を除籍することができる。



## 南相馬市博物館 令和6年度 年報

令和7年8月 発行

編集 南相馬市博物館

〒975-0051 福島県南相馬市原町区牛来字出口194番地

TEL 0244 (23) 6421 FAX 0244 (24) 6933

<https://www.city.minamisoma.lg.jp>

E-mail: [hakubutsukan@minamisoma.lg.jp](mailto:hakubutsukan@minamisoma.lg.jp)